週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1935
昭和10年

2|3
平成10年2月3日発行
(毎週1回発行)第2巻第4号
¥560
講談社

大本教大弾圧の真相!

忠犬ハチ公13歳の死と「伝説」の由来
「第4艦隊事件」、日本海軍を震撼させる!
ベニー・グッドマン楽団と"スウィング時代"

12月8日、警官隊が亀岡・綾部の両拠点に乱入
聖師逮捕、神殿はダイナマイトで廃墟に
「世直し」大本教大弾圧の真相！

▲出口王仁三郎・すみ夫妻。王仁三郎は明治33年、大本教の開祖・出口なおの末娘・すみと結婚、大本を急成長させる。

「世の中の立て替え立て直し」を掲げる大本教に対し、徹底した弾圧が加えられた。治安維持法違反による幹部の大量逮捕だけでなく、教団施設はことごとく破壊され、一木一草もとどめぬ廃墟と化した。軍国主義体制を強め、国体明徴運動が進められる中で起きたこの事件は、大本教と結ぶ革新派軍人のクーデターを警戒する「予防措置」でもあった。

警官隊五五〇人が大本教本部を急襲

昭和一〇年一二月七日深夜、底冷えする京都で、京都府警察部長の薄田美朝から警官隊に非常召集がかけられた。名目は「年末特別警戒のため」だった。薄田は大本教対策要員として、内務省の指示のもと、この年一月、京都に赴任していたのである。駆けつけた警官五五〇人は、市バスなど二二台に分乗し、丹波方面に向かった。警官隊は、明智光秀が「敵は本能寺」と命じた老ノ坂で、本当の目的地は、光秀の居城跡・亀岡の大本教施設「天恩郷」と、同じく綾部の「梅松苑」と知らされたのだった。

警官隊は、翌一二月八日午前四時半を期して一斉に摘発を開始した。事前の打ち合わせどおり「火事だ」と叫び、「電報」と呼んで押し入ったのである。島根県松江市に滞在中の大本教聖師・出口王仁三郎（六四）もこの日逮捕された。また、全国の教団関連施設も一斉に摘発、検挙者は三〇〇〇人を超え、うち六一人が治安維持法違反で起訴された。ものものしい大部隊による捕り物劇だったが、

▲ダイナマイトで破壊された、京都・亀岡の大本教本部「天恩郷」の月宮殿。

▼「天恩郷」全景。明智光秀の居城・亀山城跡に造営された。　大本本部提供（2点とも）

◎表紙　東京・赤坂の自宅で弓を引く作家・吉川英治。昭和10年8月、「朝日新聞」に大作「宮本武蔵」の連載を開始する。

12月8日、警官隊が亀岡・綾部の両拠点に乱入
聖師逮捕、神殿はダイナマイトで廃墟に

「世直し」大本教大弾圧の真相!

大本側の抵抗もなく、しごくあっさりとことは終わった。近代史上最大の宗教弾圧とされる第二次大本教事件である。

さらに翌年の一一年四月八日、綾部と亀岡の両拠点の施設という施設が、徹底的に破壊される。建物は次々とロープで引き倒され、堅牢な神殿や像は数千発のダイナマイトで爆破された。形あるものは、信者の墓にいたるまで、すべて破壊された。爆破直後の亀岡の情景を作家・坂口安吾は「上から下まで空壕の中も一面に爆破した瓦が累々と崩れ重なっている。茫々たる廃墟で一木一草をとどめず（中略）こくめいの上にもこくめいに叩き潰されている」と書いた。

大本教は明治二五年、京都府綾部の大工の未亡人・出口なおに、突然「艮の金神」が宿ったことに端を発する。なおは「金がものをいう利己主義の今の世を大洗濯・大掃除し」「立て替え立て直しの根本的変革」を主張したのだった。そして明治三一年、なおと上田喜三郎（後の王仁三郎）との出会い以降、大本教は勢力を強め、世直し教団として隠然たる影響力を持ってくる。街頭で、大本の宣伝隊は、長髪に紋付き羽織、タッツケ袴姿に身をやつし、激越にこの世の非を並べ、世直しを訴えた。末世思想を説き、大正維新を掲げた"過激"な言動に、大本教は大正一〇年、第一次弾圧に見舞われ、王仁三郎らは起訴されるが、昭和二年に大赦により免訴となっている。

急速な勢力拡大と政府批判で危険視

第一次弾圧後、再建された大本は、以前にもまして破天荒とも思える活動を展開した。「立て替え立て直し」を国家主義、大陸進出政策と結びつけ、急速な勢力拡大がはかられた。たとえば、中国の信仰団体「世界紅卍会」と結び、「すべての宗教は同根」との主張のもと、道教、仏教、回教、キリスト教各派に呼びかけ、世界宗教連合会を結成し（大正一四年）、東洋本部を亀岡においたのもその一例だった。続いて昭和六年「昭和青年会」、翌七年には「昭和坤生会」など、各種の外郭団体を結成していく。

大本の勢力を見せつけたのは、昭和九年七月二二日に開かれた昭和神聖会の発会式だった。会場の東京九段・軍人会館（現在の九段会館）は、後藤文夫内相、秋田清衆院議長、安藤紀三郎陸軍中将などの現役将官、さらに右翼の巨頭・頭山満、松岡洋右前外相といった各界の名士三〇〇〇人で埋めつくされ、はみ出した群衆が館外を黒山のように取りまいた。この会は、数々の大本系外郭団体の元締め的存在で、責任者の統管に王仁三郎、副統管に右翼・内田良平、出口宇知麿の両名を選出した。発会から一年後に、神聖会は、多数の陸海軍の有力軍人をも含め、八〇〇万人の会員を擁する日本でも有数の団体に成長する。

だが、政府、軍部と大本との蜜月は長くなかった。根底にアジアや世界の民との友好を掲げる大本と、時の政府とは同床異夢であった。さらに、肥大した組織が為政者の意のままにならなくなるにいたり、大本は再び「危険視」される。元老・西園寺公望も「あれ（大本のこと）は何とかしなければ」（『西園寺公と政局』）と語っている。しかもその中で、大本は疲弊する農村の事態をとらえ、激しい政府批判をぶった。「農村未曾有の窮状、聖代の不祥事なり、天日をおおう暗愚の為政者」といった具合である。

さらに、大本の文献を昭和七年の「五・一五事件」関係者が読みふけっていたこともあって、大本は大衆蜂起を含む右翼クーデターの火種と目された。最も警戒されたのは、大本と結びついた革新派軍人の動向であり、その予防措置が急がれていた。しかし、外郭団体そのものの摘発はきわめてむずかしかった。各界の有力者に累がおよぶからである。そこで、ターゲットは宗教団体としての大本にしぼられる。こうして第二次大本教事件が引き起こされた。そしてこの事件は、その後の各宗教団体弾圧の突破口となったのである。

大本の捜査が一段落した昭和一一年二月二五日、京都で全国の特高課長が慰労をかねた会議を開いた。翌日早朝、けたたましく電話が鳴った。東京を震撼させた「二・二六事件」の勃発を知らせる非常呼集であった。そして、弾圧からちょうど六年後の昭和一六年一二月八日、日本は真珠湾を急襲し奈落への第一歩を記すことになるのである。

▲大本教一斉検挙の12月8日、「天恩郷」大祥殿の祭壇を捜索する警官隊。大本教全被告の刑が免訴されたのは、戦後の昭和20年10月17日だった。 毎日新聞社

出口王仁三郎外伝

作家の吉川英治は、出口王仁三郎を評して「1000年に一人の人物」と言った。たしかに彼の言行は、並みの規格におさまるものではなかった。第1次大本事件で逮捕され、保釈中の王仁三郎は、大正13年2月、ひそかにモンゴルに足をのばしている。懲役5年の刑の執行停止中のことだった。王仁三郎は、張作霖の部下だった「馬賊」の頭目・盧占魁と気脈を通じ、内外モンゴルの統一をめざすため、みずから「太上将」と称し、盧を総司令として2000の兵で挙兵する。そして、チベット、モンゴルの地方宗教の最高指導者であるダライ・ラマを勝手に名乗ってしまうのである。ダライ・ラマだけではない、モンゴルの英雄チンギス・ハーンにちなみ、素尊汗とも称している。この挙兵は感情を害した張作霖軍によって撃破され、盧は銃殺、王仁三郎もあわや同じ運命になるところを助けられた。

寝室に口述筆記係の若い女性をたくさん侍らせ、生涯に16万首の和歌を残すなど、王仁三郎の並みはずれた奇行は枚挙にいとまがないのである。

◀宣伝使服姿の王仁三郎。マスコミでも精力的なキャンペーンを展開。
大本本部提供

▶大正一三年、内外モンゴルの統一をめざして挙兵、張作霖軍に捕われた王仁三郎（左から二人目）。
大本本部提供

〝忠犬〟か〝焼き鳥めあての駄犬〟か
国民的フィーバーの中で死んだ
ハチ公13歳の「伝説」と「素顔」

▶3月8日「ハチ公死す」のニュースに、渋谷駅前の銅像は、どこからともなく集まった花束や供物で埋められた。　朝日新聞社

◀生前のハチ公。大館産の雄の秋田犬で、大正12年生まれ。肩の高さ2尺1寸（約63.6センチ）、体重11貫（約41.3キロ）。　共同通信社

大正一二年、秋田県生まれ。毛色は淡黄色。尾は左巻きで、体重は一一貫――外見はごく平凡なこの雄の秋田犬の死に、数千人が涙し、全国から生花二〇〇、弔電一八〇通、清酒四斗樽一本が集まった。「主人の恩を忘れない犬」という触れこみで有名になった〝ハチ公伝説〟の隠された真実とは？

駅前で盛大な告別式「死亡通知書」も発行

「ハチや、こんなに遠くへ来て命を落としたのかい」――。

昭和一〇年三月八日、朝六時三〇分、東京渋谷区中通三丁目の路上で、一三歳の老いた秋田犬が息絶えていた。店先の掃除をすませた酒屋の女将が、路地でその老犬の亡骸に気づき、そっと手を触れるとかすかに体温が残っていたという。

女将から「いつも渋谷駅にいるハチ公が死んでいる」との通報を受けた渋谷警察署は、すぐに渋谷駅に連絡するが、職員二人がリヤカーを引いて駆けつけた時、すでにその身体は凍りついていた。

生前から国民的アイドルだったハチの容体は、一ヵ月前に主治医である東京獣医学校の板垣四郎博士によって「腹膜炎が悪化して重態」と発表されていた。当のハチは、渋谷駅の小荷物取り扱い所におかれたムシロに寝たきりの状態だった。そのため、花束や牛乳を持参して、見舞いに駆けつける子どもや老夫婦も多く、しばしば駅員を困らせていた。

ところが、この三月八日の午前二時頃、ハチは死に場所を求めるように突然、駅から姿を消して、渋谷区内の路上で息を引き取ったのである。これが、世に言う「忠犬ハチ公」の最期だった。

渋谷駅をうろつくヨボヨボの老犬だったハチを、一躍〝忠犬〟に押しあげたのは、昭和七年一〇月四日の「東京朝日新聞」の〝特ダネ〟だった。

「いとしや老犬物語――今は世になき主人の帰りを待ち兼ねる七年間」

そう題したこの記事には、「飼い主である東京帝国大学の上野英三郎農学博士の帰りをハチは渋谷駅に毎日迎えに行っていたが、博士が七年前に急逝した後もその恩を忘れず、老いの日を見張って改札口で待ち続けている」とある。

さらに、「ハチのもう一つの美徳がケンカの仲裁で、弱い者苛めをする犬があると、ハチは黙って巨大な背中で真ん中へ割り込んでいく」とも――。

まさに、〝義理堅くて正義感あふれるタフガイ〟を地でいくこの記事が掲載されると、各紙が一斉にハチの消息を報道。

ハチが出没する渋谷駅には見物人が押しかけ、商店街は「ハチ公チョコ」「ハチ公饅頭」を売り出した。そして、ついに九年四月には駅前に帝展審査員の安藤照が制作した銅像が完成。除幕式も行なわれたが、キョトンとした表情のタスキ姿のハチが周囲の笑みを誘った。

こうして日本列島にブームを巻き起こしてきた「忠犬ハチ公」が死んだとあって、午後から渋谷駅前で行われた告別式には数千人が詰めかけた。雌犬のデビーとの間にできていた息子犬の〝クマ公〟も参列する中、僧侶八人が読経。渋谷署は異例の死亡通知書を出したのである。

焼き鳥がおめあて!? ハチ公駄犬説の真相

ところが、青山墓地に眠る上野博士の隣に埋葬されたハチは、死後も一層、その〝忠犬ぶり〟を喧伝されることになる。

早くもこの年四月には、「恩を忘れるな」というタイトルで小学校の修身教科書に登場。ハチをテーマにした作文コンクールの開催など〝ハチ公狂奏曲〟が全国津々浦々で鳴り響き、〝一犬一主主義〟（一人の主人にしかつかえない）を宣伝文句にした日本犬の売りこみも過熱した（一二年に来日したヘレン・ケラーは、ハチ公血縁の秋田犬を連れ帰った）。

こうして、ハチが時代の寵児となりえたのも、当時の日本の世情と無関係ではない。そのマスコミ登場から死までの一一年間は、まさに日本が――「満州国」建

女たちの肖像

〝元祖キャリア・ウーマン〟奥むめおが子連れで奔走！ 東京に「働く婦人の家」開設

稲葉真弓

大宅壮一が〝主婦教〟〝奥さま教〟の教祖と呼んだ婦人運動家・奥むめお（三九）が東京・市谷田町に、職業婦人、いわゆるキャリア・ウーマンの保護・自立を目的に「働く婦人の家」を設立したのが、この年の三月一日のことだった。「働く婦人の家」は、すでに大阪など各地に設立されていたが、奥は東京をその拠点とすることで、さらに活発な活動へと乗り出したのだった。

「働く婦人の家」はいわばキャリア・ウーマンの〝教養クラブ〟であり、〝職業訓練所〟でもあった。和・洋裁、和歌、料理、音楽、速記、英語などの夜間講義を積極的に行ったほか、身の上相談、困っている人の保証人も引き受け、「生活のあらゆる領域での連帯と協同」をめざした。当時は「女だてらに」と特殊な目で見られることが多かった職業婦人たちの中には、ここを憩いの場としたものも少なくなかったという。

奥むめおの活動は、「働く婦人の家」設立以前、大正九年、平塚らいてうらと取り組んだ婦人参政権運動でよく知られている。その奔走ぶりはほとんど〝子連れの韋駄天〟という印象を受けるが、彼女は息子をおぶって陳情に走りまわる一方、やはり子連れで講演に飛びまわり、大正一一年、女性の政治集会参加の権利を勝ち取った。一二年には「職業婦人社」を設立、啓蒙雑誌「職業婦人」を発行するかたわら、婦人セツルメントを開設、これらが「働く婦人の家」の活動へとつながっていった。

毎日新聞社

▲昭和5年、婦人セツルメント開設の頃。

彼女は明治二八年福井市生まれ。男女平等主義だった父親の理解で日本女子大に進み、在学中に労働運動に開眼。卒業後、紡績工場で女子工員の悲惨な生活を体験した後、大正八年、奥栄一と結婚、後に栄一と別れ佐々井一晃と暮らしたが、主婦の立場から社会を見る視線は変わらなかった。

戦後は、昭和二二年、第一回参議院選に立候補して当選。不良マッチの追放など消費者運動の第一人者となったのはこの頃のことである。二三年「台所の声を政治に」とシャモジを旗印にした主婦連合会を発足させ、米価値上げ反対、一〇円牛乳の導入、日用品審査など庶民生活を守る運動を展開、〝オシャモジの主婦連〟は戦後風俗として広く世に知れ渡った。三一年、東京・四谷に主婦会館を設立、全国の主婦のリーダーとして活躍したが、平成元年、会長を引退。九年七月、一〇一歳で死去した。

勝者・敗者

一〇〇㍍走に世界タイ！ 「暁の超特急」吉岡隆徳の錬磨のスタートダッシュ

阿部珠樹

陸上の短距離種目でオリンピックに優勝した日本人はいない。だが、もし、陸上に五〇㍍競走があったとしたら、日本人が優勝できたかもしれない。もっとも、その可能性があったのは、ただ一人の選手にすぎないが。

吉岡隆徳。「暁の超特急」と呼ばれたスプリンターである。

体が小さく、ストライドもせまい日本人が、世界の一流選手に伍してスプリンターとして戦うためには何が必要か。早くから国内では非凡な才能を見せていた吉岡の関心は、そこに集中していた。そして彼が導き出した答えは、「スタートを磨くこと」。小柄な体はトップスピードにすばやく入ることができる。その速さを利用して、スタートでできるだけほかの選手を引き離す。後はどこまで粘れるかである。

吉岡は独自に工夫を重ね、低い姿勢からバネを利かせて飛び出す個性的なスタートダッシュを身につけた。そしてそれを武器に、昭和七年のロサンゼルス五輪では、男子百㍍で日本人として初めて六位入賞をはたした。六〇㍍までは、吉岡はトップを守った。「五〇㍍競走なら」と書いたのは、このためである。

ロサンゼルスの後も、吉岡は鍛練を重ねた。そして、二五歳のこの年六月九日、オリンピック入賞に匹敵する快挙をやってのける。甲子園南運動場で行われた関東・近畿・フィリピン三対抗陸上で、当時の世界記録に並ぶ一〇秒三の世界タイ記録をマークしたのである。それまで、フィールド競技での世界記録はあったが、日本人には不向きと考えられていたスプリント種目での世界記録は初めてで、また、その後、世界記録をマークしたものもいない。いかに吉岡の才能が抜きん出ていたかがわかる。

競技生活を引退した後も、吉岡はコーチとして依田郁子、飯島秀雄という陸上史を飾る名スプリンターを育てた。しかし、弟子たちも含め、いまだに吉岡の成績をしのぐスプリンターは現れていない。

朝日新聞社

▲吉岡はこの年、一〇秒三を三度出す。昭和三九年まで日本記録だった。

▲晩年のハチ公は、渋谷駅を〝わが家〟として、駅員にかわいがられて暮らすように

人）が「朝日新聞が創った『忠犬ハチ公』神話」という記事を発表。

「記者達がたむろする駅前の飲み屋で残飯を与えられたことが、野良犬（ハチ）を美化する契機となった」「飲食店街をうろつく老いぼれ野犬では話にならないが、忠犬なら陸軍省と文部省が推奨するビッグニュースとなる」と、忠犬ハチ公伝説が、マスコミが時流におもねってデッチあげた作り話だったと告白した。

このハチ公駄犬説に信憑性を持たせるのが、上野博士の死後から昭和四年までハチを飼っていた日本法制学会の沢野裕治理事長（現・七一歳）の証言である。

「ハチが毎日渋谷駅に出かけたのは、亡き上野博士を待っていたのでなく、渋谷駅前の屋台でもらえる焼き鳥がめあてで

尋常小學修身書　巻二

ト 信綱 ヲ ホメ、「コレ カラ ハ、マタ カヤウナ アヤマチ ヲ シナイ ヤウ ニ」ト イマシメテ、別 ニ トガメマセン デシタ。

シャウヂキ ハ 一シャウ ノ タカラ。

二十六 オン ヲ 忘レル ナ

ハチ ハ、カハイ、犬 デス。生マレテ 間 モナク ヨソ ノ 人 ニ ヒキ取ラレ、ソノ 家ノ 子ノ ヤウ ニ カハイガラレマシタ。ソノ タメ ニ、ヨワカッタ カラダ モ、大ソウ チャウブ ニ ナリマシタ

▲国定教科書『尋常小学修身　巻の二』に登場したハチ公。昭和10年の新学期から使われた。挿絵は石井柏亭。

してきたんです。時代や世代を越え、今も愛され続けている事実――これこそ、ハチの〝純朴な気持ち〟を裏づける、番のあかしなのではないでしょうか」

1月

Popperfoto／ユニフォト・プレス

◀独仏国境ザール地方、ドイツに復帰（1月13日）第1次大戦後のベルサイユ条約以降、国際連盟管理下にあったが、住民投票でドイツ復帰賛成が9割以上を得票。写真は3月2日のザールブリュッケン。

▼「忠犬ツル」の碑建立（1月24日）寒さと飢えのため山中で死亡した主人の遺体を二十余日間守った栄誉をたたえた。大阪府豊能郡細河村（現・池田市）での式典。

朝日新聞社

▶AP通信社、写真を初の直接配信（1月1日）電話線を利用して会員新聞社に電送。世界の事件の記事と写真が同時に紙面に掲載できる、画期的システムだった。写真は、1日配信したニューヨーク郊外の飛行機事故の空撮。

WWP

「歴史写真」

▼3年以上勤続の女給を表彰（1月30日）女給は農村窮乏を反映し人気があったが、健康をそこねたりして転職するものも多かった。写真は東京・築地の組合で。

▲全盛時の玉錦（1月11日）雲竜型土俵入りも堂に入ったもの。すでに6回の優勝をとげ、この春場所からさらに3連覇、双葉山時代にいたるまで圧倒的な強さを誇った。

◀宝塚、2度目の火災（1月25日）舞台裏から出火、少女歌劇の殿堂と言われた4000人収容の3階建て大劇場を全焼。大正12年にも被災し、耐震・耐火構造になっていたが、内側から出た火には無力。

朝日新聞社

「国際写真情報」／国際フォト

昭和10年1月

1（火）●岡田茂吉、大本教から分かれて大日本観音会（後の世界救世教）を開教。
●高垣眸「怪傑黒頭巾」、「少年倶楽部」に連載。
●東京市、初の公設保健所を京橋に開設。

2（水）●横浜市で獅子舞めぐり三十余人が乱闘。

3（木）●オランダで安達峰一郎国際司法裁所長の国葬。

4（金）●埼玉県七本木村で凧揚げの小学生が感電死。

5（土）●米で日本の軍備均等要求に関する公開討論会。

6（日）●日本電気工業、朝鮮の明礬石でアルミ生産へ。

7（月）●今西錦司ら京大隊、朝鮮・白頭山に冬季初登頂。

8（火）●モンゴル兵が満州（中国東北部）ハルハ廟付近一帯を占領。
●東京府檜原村で女性のもんぺ常用を実施。

9（水）●頼母子講最多県は山口、最少は栃木と新聞に。

10（木）●国際連盟、日本の南洋委任統治継続を承認。

11（金）●総同盟と全労の幹部、非公式に合同合意。

12（土）●鳥取県境町で大火。町の三分の一を焼失。

13（日）●中国紅軍、貴州省遵義を占領（毛沢東指導権）。

14（月）●警視庁、映画館の伴奏レコードの取締り通達。

15（火）●三府二一県で知事大異動。政友会系を排除。
●文部省ローマ字調査会、日本式綴り方を推奨。

16（水）●外務省、第一回南米行き農商実習生を決定。

17（木）●和辻哲郎ら思想視学委員、学校視察を開始。
●国際連盟、ザール地域のドイツ帰属を決定。

18（金）●東京航空、近距離エア・タクシーの営業申請。

19（土）●日本中南米輸出組合連合会、設立。

20（日）●町田忠治商相、民政党総裁に就任。

21（月）●北満鉄道譲渡に関する日「満」（「満州国」）ソ交渉が合意（3月23日、三国が正式調印）。

22（火）●北満鉄道のソ連人従業員六〇〇〇人解雇決定。

23（水）●関東軍、熱河・チャハル省境で宋哲元軍と交戦。八人死傷（第一次熱西事件）。

24（木）●民政党の斎藤隆夫、陸軍パンフレットによる戦争宣伝と軍事費偏重を衆院で攻撃。

25（金）●兵庫県の宝塚大劇場、焼失（4月1日再開）。

26（土）●大日本東京野球倶楽部、ノンプロの名鉄と静岡・草薙球場で初試合。一四対一で勝つ。

27（日）●三原山飛びこみの女性、深さ六〇㍍から救出（11月救出青年との結婚控え惨殺される）。

28（月）●中条百合子と獄中の宮本顕治、結婚。
●アイスランド、世界で初めて中絶を容認。

29（火）●東京市、教育関係者の金品贈答禁止を通牒。

30（水）●海軍高等技術会議官制公布。議長・加藤寛治。

31（木）●日「満」連合軍、ハルハ廟を占領。

ニュース・ファイル

1935

フォト＋日録で再現する365日

軍部や右翼の攻勢はとどまらず、日本は「天皇ありて国家あり」と国家主義の道を突き進む。中国進出は蒋介石の妥協によって拡大するが、ついに毛沢東が抗日救国統一戦線を提唱。一方、ヒトラーやムッソリーニの台頭に対し、仏では反ファシズムの人民戦線が誕生した。

◀「満州国」皇帝・溥儀来日（4月6日）日本の軍艦「比叡」で横浜港に到着、礼砲が打ち鳴らされ秩父宮（右）が出迎えた。そして東京駅では天皇の固い握手を受ける。しかし、溥儀の"日満友好"の夢は長く続かなかった。

朝日新聞社

「国際写真情報」/国際フォト

▲**海軍中将・山本五十六、帰国(2月12日)** 前年来渡英、日本代表としてロンドン軍縮会議予備交渉にのぞみ、米英に軍備均等要求を提示していたが休会。写真は東京駅で歓迎にこたえる山本(手前)。

▼**冬季五輪スキー代表決まる(2月11日)** 札幌・宮の森スキー場で全日本選手権を挙行、翌年のガルミッシュ・パルテンキルヘン派遣8選手を選んだ。写真はその一人、関口勇の複合競技優勝のジャンプ。

朝日新聞社

ROGERO・VIOLLET/ユニフォト・プレス

▼**湯川秀樹、中間子理論発表(2月)** この月の「日本数学物理学会記事」に英文で発表。電子と陽子の間に未知の素粒子、中間子を想定した画期的なこの研究により、1949年度ノーベル物理学賞を受賞。

毎日新聞社

▲**美濃部達吉、「一身上の弁明」(2月25日)** 18日、貴族院本会議で退役陸軍中将の議員・菊池武夫が、〝天皇が機関であるとは不敬だ〟と「天皇機関説」を非難。自説は天皇の大権を否定するものではないと弁明した。

▼**米海軍の飛行船「メーコン号」墜落(2月12日)** サンディエゴ周辺で予行演習中に故障。機体は海底に沈没し、乗員83人中二人が行方不明になった。この事故で大型の軍用飛行船は衰退してゆく。

朝日新聞社

▲**シャーリー・テンプル、史上最年少のアカデミー賞(2月20日)** 「歓呼の嵐」で歌って踊って人気沸騰の6歳の天才少女に特別賞。「彼女の笑顔は不況を乗り切る力を与えた」とルーズベルトが語ったという。

昭和10年2月

- 1(金)●中井正一ら、京都で「世界文化」を創刊。
- 2(土)●ファッショ的少国民の指導機関「帝国少年団協会」が誕生、と新聞に。
- 3(日)●商工省・日本製鉄など、銑鉄値下げで合意。
- 4(月)●三菱重工、九六式艦上戦闘機の試験飛行成功。
- 5(火)●米アリゾナ州議会に排日土地法案提出。●衆院議員・朴春琴、本会議質問で朝鮮への参政権・兵役賦課を求める。
- 6(水)●廃娼連盟、国民純潔同盟への改組を決定。
- 7(木)●鉄道省が退職金資金のめどがついたため高齢者・高給者を中心に一万人整理、と新聞に。
- 8(金)●米穀商連合会、産業組合の流通参与により利益を失うとして米穀自治管理法案に反対決議。●商工省、肥料の硫安高騰で五万トンを緊急輸入。
- 9(土)●農村応急費に一五〇〇万円計上と岡田首相。
- 10(日)●商工省、契約高三億円以上の生命保険会社に一〇〇〇円未満の契約禁止を通達。●呉海軍航空隊機、福岡県で墜落。三人死亡。
- 11(月)●東京中央卸売市場(築地市場)、開場。
- 12(火)●日本医師会、医薬強制分業反対大会を開催。
- 13(水)●ルネ・クレール監督「最後の億万長者」封切。
- 14(木)●高田浩吉主演「大江戸出世小唄」封切。●大日本東京野球倶楽部、米国遠征に出発(7月16日帰国。七五勝三四敗一引き分け)。
- 15(金)●石巻市の農民、米(政府米)貸せ運動を開始。
- 16(土)●税務署疑獄被告の日本化工会計主任、自殺。
- 17(日)●東京モスリン金町工場で解雇反対ストに突入。●ハワイ日本人移民五十年祭、開催。
- 18(月)●菊池武夫、貴族院で美濃部達吉の天皇機関説を攻撃(28日美濃部、不敬罪で告発される)。
- 19(火)●東京府、東郷平八郎祀る東郷寺建立を許可。
- 20(水)●日本共産党機関紙「赤旗」、一八七号で休刊。●六歳の天才子役シャーリー・テンプル、「歓呼の嵐」でアカデミー賞特別賞を受賞。
- 21(木)●大審院、中傷文書配布は名誉毀損との新判例。
- 22(金)●読売新聞社長・正力松太郎、暴漢に切られ重傷。
- 23(土)●衆院、第一二回五輪東京招致建議案を可決。
- 24(日)●日伊間で初の交換放送。スカラ座から歌劇。
- 25(月)●社会大衆党がナチス式の青年突撃隊を結成。●東京市議会、乱闘のすえ歳費八三円増を可決。
- 26(火)●米、屑鉄輸出が対日分急増し過去最高と発表。
- 27(水)●中国国民政府、排日運動厳禁を全国に訓令。
- 28(木)●米デュポン社、合成繊維ナイロンの開発成功。●ハンス・ヤーライ主演「未完成交響楽」封切。

毎日新聞社

◀**北満鉄道譲渡協定、東京で調印(3月23日)** 「満州国」が満州里―ウラジオストク間の鉄道をソ連から買収する協定に、日「満」ソ3国が調印。広田弘毅外相(中)、ユレニエフ・ソ連大使(左)、丁士源満州国公使(右)。

▲**ふえ続ける雑誌(3月)** この年9月までに発刊された一般雑誌は947誌。前年に比べ、64誌も増加した。少年雑誌では、「少年倶楽部」「日本少年」「新少年」などが人気。写真は4月号の広告を貼った書店店頭。

◀**ルビンシュタイン来日(3月29日)** 4月2日から、東京の日比谷公会堂で公演。欧米で大成功をおさめるポーランドのピアニストが、ショパンの「夜想曲」などで、華麗な〝神技〟を披露。写真は東京駅での歓迎。

「国際写真情報」/国際フォト

◀**「エア・タキシー」誕生(3月5日)** 東京航空輸送社が羽田飛行場で開業。料金は1分1円と高いが、700キロまでは無着陸。定員3人。写真は海外在住日本人の寄付で製作された使用機「海外同胞号」の引き渡し式。

毎日新聞社

リンチ共産黨の
大立物捕はる
最後の一人・袴田里見

拳銃を忍ばせて手むかふ

袴田里見

▶**横浜で復興記念大博覧会(3月26日)** 大震災から立ち直った姿をアピール。山下公園一帯を会場とし、陸・海軍省などが出展。近代科学戦のジオラマなどが人気を得、その様子がラジオ中継された。

◀**日本共産党ついに壊滅(3月4日)** 最後の中央委員・袴田里見が特高に逮捕され、機関紙「赤旗」も休刊。党中央の再建は第2次大戦後を待つことに。写真は5日付「東京日日新聞」。

朝日新聞社

昭和10年3月

- 1(金)●奥むめおら、東京に「働く婦人の家」を創設。●保田與重郎ら、「日本浪曼派」を創刊。
- 2(土)●北海道と福岡県が女学校・農学校の外国語授業を廃止または時間削減、と新聞に。
- 3(日)●英、対中財政援助共同借款を日米仏に提案。
- 4(月)●共産党の袴田里見、東京で逮捕。党中央壊滅。
- 5(火)●安部磯雄・市川房枝ら、国民純潔同盟を結成。
- 6(水)●前年の凶作により、政府所有米四〇〇万石の大量払い下げを行う。
- 7(木)●東京電気、光電管の新型テレビ受像実験公開。
- 8(金)●東京・渋谷駅の「忠犬ハチ公」、路上で死亡。
- 9(土)●大蔵省、一〇年度予算に占める軍事費は四六・六二%で列強諸国では最も高いと発表。
- 10(日)●内紛続く曹洞宗で郵便投票での初代管長選挙。
- 11(月)●満州移民団新潟小隊が二一人の花嫁斡旋を高田連隊区司令部に依頼、と新聞に。
- 12(火)●独、一五年ぶりの空軍復活が決定。
- 13(水)●米海軍省、パンアメリカン航空申請のミッドウェーなど三島での飛行場建設を許可。
- 14(木)●全米学生チームによるアメリカンフットボール競技会、東京神宮競技場で開催。
- 15(金)●操縦士・松本きく子、国際飛行士連盟から表彰。
- 16(土)●太宰治、鎌倉山で首吊り自殺はかるが未遂。●ヒトラー、軍備制限のベルサイユ条約の破棄と一般徴兵制による独再軍備を宣言。
- 17(日)●仏教女子青年会連盟結成。二〇団体が参加。
- 18(月)●全国盲人大会、鍼灸などの盲人専業化を決議。
- 19(火)●警視庁、少年を二二時間連続酷使の工場摘発。
- 20(水)●貴族院、政教刷新に関する決議案を可決。
- 21(木)●「昭和の巌窟王」吉田石松、二二年ぶり仮出所。
- 22(金)●廃娼反対の主張に衆院議員二七〇人が署名。
- 23(土)●衆院、天皇機関説排撃の国体明徴決議案可決。
- 24(日)●北樺太買収問題で対ソ交渉を希望と広田外相。
- 25(月)●内務省が年十余万冊の納本を活用した中央図書館の建設を計画、と新聞に。
- 26(火)●横浜市で大震災復興記念横浜大博覧会開幕。●長崎県端島炭鉱でガス爆発。三十余人死傷。
- 27(水)●堺市立水族館が全焼、魚類・陳列物に被害。
- 28(木)●農家飯米差し押さえ禁止を三ヵ月分に拡大。
- 29(金)●警視庁、二〇〇〇万円の公債偽造団を検挙。
- 30(土)●東京市、大東京町会連合会の結成計画を発表。●医療報酬引き上げ問題で内務省と医師会妥協。
- 31(日)●東京の目蒲電鉄の車内に放置されていた猫いらず混入のドラ焼きを食べた五人が重態に。

◀日満交歓競技大会開催(4月13日)「満州国」皇帝・溥儀の来日を記念し、この日から東京、その後、京都、京城(ソウル)で陸上競技などが行われ、陸上の吉岡隆徳も出場した。写真は東京・神宮外苑競技場で行われた剣道のアトラクション。

朝日新聞社

▶シャム舞踊団来日(4月6日)シャム(現・タイ)国立音楽舞踊学校の生徒35人が、16日の東京の帝国ホテルを皮切りに、大阪、横浜、京都、さらには朝鮮、「満州国」などで独特の民族舞踊を公開した。写真は、7日ルーア女史の引率で東京駅に到着した一行。

朝日新聞社

▲東京の湯島聖堂復興(4月4日)建築家・伊東忠太の設計により、震災で焼失した木造の孔子廟(聖堂)が、鉄筋コンクリート造りになって復活。13日には来日中の溥儀も参拝した。

▲学校放送スタート(4月15日)日本放送協会が、ラジオ体操を土曜をのぞく毎日、また小学校各学年向け番組などを週1回放送。写真は録音風景。初日は国歌斉唱、松田源治文相の挨拶で始まった。

NHK提供

▼東京・港まつり開催(4月1日)海の表玄関をめざして大正12年から始まった第3期改良工事、芝浦町・日出町・竹芝町各桟橋の延長が終了したことを祝った。写真は、式典が行われた芝浦埠頭。

朝日新聞社

▶台湾で大地震(4月21日)早朝、中北部で激しい揺れが発生、台中州・新竹州を中心に1万5292戸の家屋が全壊、死者は3185人にも達した。住居が台湾特有の簡易な土确造りだったため、大被害となった。写真は無残に崩壊した土确建築。

朝日新聞社

昭和10年4月

1(月)●青年学校令公布。陸軍の兵役予備教育の一環として実業補習学校と青年訓練所を統合。
●緑表紙の「尋常小学算術」の教科書、使用開始。
2(火)●米カリフォルニア州下院に、第一次大戦に従軍した東洋系在郷軍人の市民権確認法案提出。
3(水)●会社重役の娘たちの間で就職ブームと新聞に。
4(木)●文部省、東京大学野球連盟のリーグ戦二季制復活を入場料低減など条件つきで認可。
5(金)●東京の女給が品位向上目的に「みどり会」結成。
6(土)●「満州国」皇帝・溥儀、来日(~24日)。
●熊本県、有毒染料使用玩具二〇〇〇点を没収。
7(日)●京都で共産党員二七人検挙。一人が拷問死。
●東京・日本橋の呉服商夫妻が空中銀婚式挙行。
8(月)●米で救済事業法成立。救済予算約四九億ドル。
9(火)●内務省、美濃部達吉の『憲法撮要』などを発禁。
●ラジオ聴取契約数が二〇〇万を突破。
10(水)●満州の撫順炭鉱で爆発事故。四五人が死傷。
11(木)●英仏伊三国がストレーザ会議開催。独を非難。
12(金)●日産自動車、横浜工場に一貫生産設備完成。
13(土)●外務省、日本製品の中南米進出妨害と米非難。
14(日)●太平洋最大の豪華客船「エンプレス・オブ・ブリテン号」、横浜に入港。
15(月)●日本放送協会、「学校放送」を開始。
16(火)●満州炭業統制委、出炭・販売・価格の統制決定。
17(水)●国際連盟特別理事会、独糾弾決議案を採択。
●青森地方職業紹介事務局、紹介した少女四人を東京の工場が酷使と両国署に取り戻し依頼。
18(木)●三井の税金二重払い訴訟で東京市に返還命令。
●政友会、内閣審議会不参加の党議を決定。
19(金)●国語審議会、第一回総会開催。会長・南弘。
20(土)●東海林太郎歌「旅笠道中」発売。
●前月来ストの東京印刷争議団で一三〇人検束。
21(日)●台湾中北部に大地震。三一八五人死亡。
22(月)●東大学生の生活費は月四七円五九銭と新聞に。
●東京・大久保病院で医師が侵入犯に拳銃乱射。
23(火)●在郷軍人会、天皇機関説排撃冊子を全国配布。
24(水)●朝日新聞社機、台北―東京間二五〇〇キロ飛行。
25(木)●青森県の満州少年商業移民団三三人が出発。
26(金)●内務省が多摩川や荒川など四河川の河原五二〇〇町歩の農園などへの利用許可、と新聞に。
27(土)●ブリュッセル万国博覧会開幕。
28(日)●芝・増上寺でパリの蚤市模した古道具市開催。
29(月)●名岐鉄道の押切町―新岐阜間開通し特急運行。
30(火)●日本空輸が全旅客機に無電装備、と新聞に。

証言・あの日この日
梨本宮伊都子(53)

3月8日(金) 〈渋谷駅前の名物、忠犬八公、今暁、老病で死んだといふ事、ラヂオで聞た。人気は大したものにて、花輪やそなえもので一ぱい。集ふ人は黒山のごとく、遺骸は、はく製にして教育(「科学」の誤りか)博物館に長く保存するそうで、死してなほ余栄あるもの、人間よりよほどえらひ〉(小田部雄次編『梨本宮伊都子妃の日記』)

明治33年、18歳で、皇族の梨本宮守正と結婚した伊都子は、書くことの好きな女性だったらしい。明治32年から昭和51年まで、約80年近く、膨大な日記を書き残している。しかも彼女は旧佐賀藩主の娘らしく気丈な性格で、政治や社会への関心も深く、その世相批判や人物評はかなり辛辣であった。この日も、忠犬ハチ公の死を記しながら〈人間よりよほどえらひ〉と、厳しい世相批判を忘れてはいない。 (山崎行太郎)

毎日新聞社

「国際写真新聞」

◀ガンジー、大地震罹災地見舞う(5月31日)この日早朝、激震に襲われ3万人近くが死んだインドの英領バルチスタン州首都ケッタに駆けつけた。彼は前年国民会議派議長を辞し、表舞台を降りていた。

▼米大リーグで初ナイター(5月25日)シンシナティのクロスリー球場の8基の照明灯が、ルーズベルト大統領によって点灯。ホームチームのレッズが、フィラデルフィア・ナショナルズを2対1で破った。

毎日新聞社

朝日新聞社

▶内閣調査局発足(5月11日)総理大臣の諮問に応じて重要政策の審議・建議を行う内閣審議会とともに発足。国策調査機関として省庁の枠を超えた調査・立案がおもな任務だったが、昭和12年廃止、新たに企画庁が設置される。初代長官・吉田茂。

▶武蔵山、横綱に昇進(5月21日)横浜出身の25歳。186センチ、120キロ。大正15年出羽海部屋に入門、昭和6年には小結から一気に大関に昇進。昇進以降は不振で幕内優勝は1回だけだった。

◀全米バスケットボール選抜軍強し(5月12日)報知新聞社らの招きで5月6日に来日し、日本各地を転戦。この日は、東京の神宮外苑で全日本選抜学生軍と戦い、前半の大差を守り38対23で快勝した。

朝日新聞社

昭和10年5月

1(水)●戦前最後の第一六回メーデー開催。
●独のレニ・リーフェンシュタール、ナチ党大会記録映画「意志の勝利」で国家大賞受賞。
2(木)●天津の親日派新聞「国権報」社長・胡恩溥、暗殺。
3(金)●高等文官試験委員から天皇機関説支持者排除。
4(土)●二日来の警視庁暴力団摘発で二〇六〇人検挙。
●婦人平和国際連盟二十周年を記念し、五カ国(日米英ソ仏)でラジオでのメッセージ交換。
5(日)●浅間山と阿蘇山が爆発。
6(月)●北海道・茂尻炭鉱でガス爆発。九三人死亡。
7(火)●上海で長崎の凧揚げ流行し注文殺到と新聞に。
8(水)●満鉄の九年度決算で鉄道収入が過去最高に。
●桜麦酒販売設立。ビールの販売カルテル成立。
9(木)●ピエール・R・ウィルム主演「外人部隊」封切。
●日本空輸、東京―富山間の夏季定期航路開設。
10(金)●宮本百合子検挙(11日窪川いね子検挙)。
11(土)●「全警察官の守護神」青葉神社、東京に建立。
12(日)●拓務省、統治刷新の巡察隊を南洋庁に派遣。
●全国小学校女教員大会。男女不平等に抗議。
13(月)●松山城・松江城天守・犬山城天守など国宝指定。
14(火)●義済会、日本婦道講習会(花嫁学校)を開設。
15(水)●ハワイで漁業独占の日本人に排斥運動と外電。
●モスクワの地下鉄開業。
16(木)●「少年血盟団」公判、静岡地裁で開廷。
17(金)●日中両国、公使の大使昇格を同時発表。
18(土)●大楠公(楠木正成)六百年祭記念祭典挙行。
19(日)●佐渡金山で採金率倍増の新技術成功と新聞に。
20(月)●日本主義の新日本海員組合、創立。
●関東軍、孫永勤軍を追い非武装地帯に侵入。
21(火)●武蔵山、横綱昇進と決定。
●長崎無線電信局、千葉発信の超短波受信成功。
22(水)●民政党、政友会との提携解消を決定し通告。
23(木)●加藤勘十、米労働総同盟の招きで渡米。
24(金)●上海で経済不安から銀行取り付け騒ぎが発生。
25(土)●国鉄の佐賀―筑後大川間が開通し佐賀線全通。
26(日)●養蚕不況と凶作の中部八県協議会、開催。
27(月)●米最高裁、ニューディール政策の産業復興法(NIRA)は三権分立に反すると違憲判決。
28(火)●帝国美術院改組(会員を五〇人に増員など)。
29(水)●防衛司令部令公布。東京・大阪・小倉に設置。
30(木)●朱徳・毛沢東の中国紅軍、揚子江渡河を決行。
●福島県入山炭鉱でガス爆発。四四人死亡。
31(金)●「満州国」政府、大陸科学研究所顧問に理研の大河内正敏・鈴木梅太郎両博士を決定。

▲西日本に大水害(6月28日) 前夜来の豪雨で、各地の河川が氾濫、家屋倒壊など被害甚大だった。京都では鴨川の氾濫で多くの橋が流失、写真は賀茂大橋の上から高野川合流点を見る人々。

朝日新聞社

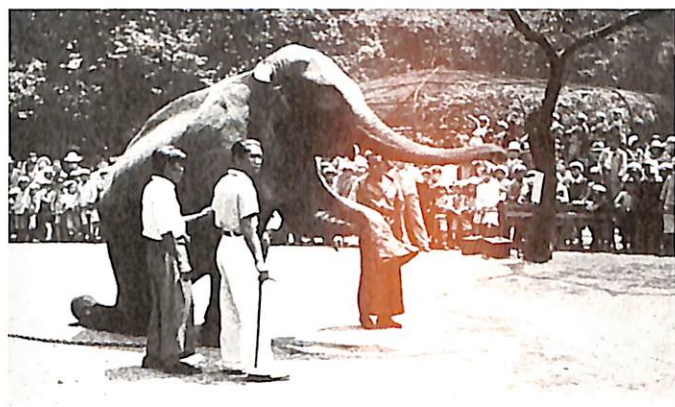
「国際写真新聞」

▲ベーブ・ルース(40)現役引退(6月3日) この年からボストン・ブレーブスの助監督も兼任したが、球団の会頭とソリが合わず退団。ルース(右)はヤンキース黄金時代の中心選手で本塁打王12回。

▼サッカー日本一に朝鮮代表の京城蹴球団(6月1日) 東京の明治神宮競技場で行われた第1回全日本蹴球選手権大会決勝戦で、関東代表の文理大を6対1で圧倒、優勝杯を獲得した。

朝日新聞社

▶ドイツで徴兵検査、実施(6月17日) ヒトラーのベルサイユ条約破棄と再軍備宣言を受け、精鋭軍再現のためベルリンを皮切りに全国で成人男子の検査を実施。写真は検査官の前での体操。

「国際写真新聞」

朝日新聞社

▲上野動物園に初代花子お目見え(6月5日) シャム(現・タイ)国から「平和の使節」として贈られた1頭で、一緒に来日した調教師がゾウの調教技術をもたらした。もう1頭は大阪・天王寺動物園に託された。

▶張学良、蔣介石の対日妥協策を非難(6月4日) 中国の成都で会談。日本の強引な華北分離工作促進に対し、東北軍を率いる張(右端)は「内戦停止、一致救国」を訴えたが、国民政府主席の蔣(左端)は「先安内、後攘外」の従来の姿勢を固持。10日、「梅津・何応欽協定」で日本の要求に屈した。

「歴史新聞」

昭和10年6月

1(土) ●日本放送協会、北米向け海外放送を開始。●鉄道省、初めて女子の車掌を採用する。

2(日) ●松坂屋、皇軍慰問団を結成し満州へ派遣。

3(月) ●洋画家・石川寅治ら二六人、帝展出品拒否声明。●ボートのエイト五輪代表に東大チーム決定。●仏客船「ノルマンディー号」大西洋横断新記録。

4(火) ●内務省、退職金を制度化する退職手当積立金法案要綱を発表(経済界は反発)。

5(水) ●関東軍特務機関員四人が通過査証不携帯で宋哲元軍に連行される(チャハル事件)。

6(木) ●商業組合中央会、創立。三六府県から参加。

7(金) ●有楽座開場。夏川静江ら東宝劇団が柿落とし。●名古屋放送局、コノハズクの鳴き声を中継。

8(土) ●警視庁、ダンスホールの一斉取締りを行う。

9(日) ●吉岡隆徳、陸上一〇〇㍍一〇秒三の世界タイ。

10(月) ●国民政府軍、河北省への日本側要求を全面的に承認(梅津・何応欽協定)。

11(火) ●日本の舞台模型をモスクワ演劇美術館へ寄贈。

12(水) ●帝国学士院で朝鮮の楽浪土城発掘に関し報告。

13(木) ●岡山市浜川原小作争議団、裁判所へ陳情。

14(金) ●セメント二〇社、増産中止の一年延長を協定。

15(土) ●田中絹代主演「お琴と佐助」封切。

16(日) ●中島飛行機のダグラス機製作決まると新聞に。●米加州議会上程の排日法案一四件、全部廃案。

17(月) ●仙台鉄道局が冷しビール駅売り許可と新聞に。

18(火) ●選挙粛正中央連盟発会式。●英独海軍協定調印。英、独の再軍備容認。

19(水) ●東京市の紙芝居業者約二〇〇〇人と市調査。●国際労働会議の労働時間短縮問題委、週四〇時間の原則を条約案として採択。

20(木) ●音丸のデビュー曲「船頭可愛や」発売。

21(金) ●五大財閥が出資し、日本アルミニウム設立。

22(土) ●帝人事件の初公判で被告一六人全員が否認。

23(日) ●和歌山県太地沖に鯨の大群出現、と新聞に。

24(月) ●逓信省、世界初のテレビ電話実験に成功。

25(火) ●関東軍測量隊員、モンゴル兵に拉致される(ハイラステンゴール事件)。

26(水) ●東京市連合防護団、五〇万人で防空予行演習。

27(木) ●土肥原・秦徳純協定成立。宋哲元軍撤退など

28(金) ●仏で共産党と社会党などが反ファシズムの人民戦線を結成。●前夜来の豪雨で西日本一帯が水害被害。

29(土) ●林長二郎主演(三役)「雪之丞変化」封切。

30(日) ●東京市、初めて定年制を実施。一九六人退職。

「現場」を歩く 秋田

噴出に政府・軍首脳が狂喜した"日本最大"八橋油田の今

山本徹美

▲現在の八橋油田の採油風景。最盛期の昭和30年代には年間20万キロリットルを生産したが、今はその1割以下。 但馬一憲

昭和一〇年三月二〇日午前九時二〇分頃、秋田市八橋で採掘していた日本鉱業会社の油井で大噴出があった。

「深度二〇三㍍に達した日鉱上総式四号井は、突如として大爆音と共に猛噴を始め、油煙はたちまち黒煙のごとく天に沖し、噴油した原油は一帯を黒く染め、草生津川から雄物川に奔流し、飛沫は六～七百㍍先にも及んだ」(『油田のあゆみ』帝国石油)。

空から原油の黒い雨が降ってきたのである。「上総式四号井」は川の中に櫓を建てて掘られた井戸で、上総式とは掘削方法を表している。井戸からは連日約一八〇㌔㍑の原油が噴出。わが国の油井では最大だった。このニュースは軍事資源確保に頭を悩ませていた政府首脳を大いに喜ばせる。さっそく広田弘毅外相、大角岑生海相らが視察したほか、第二次世界大戦前には東条英機首相や岸信介商工大臣なども足を運んでいる。

日本鉱業の成功に日本石油など同業九社が雄物川流域に集結、競って油田発掘に力を注ぐ。河原や水田には試掘・採掘用の櫓が林立した。昭和一三年八月、石油資源開発法が施行され試掘費用など全面的に政府が援助すると、ますます拍車がかかった。同法に基づき、一七年三月、日鉱、日石などを統合した国策会社・帝国石油が誕生する。

住宅街の油田風景

終戦後、国策会社としての帝国石油は解体され、昭和二五年六月、民間会社として新発足、現在にいたっている。

八橋油田を訪ねてみた。秋田駅から車で北西へ約一〇分。かつてこのあたりのシンボルだった櫓は、一本も見当たらない。帝国石油生産課の板橋金忠主事に同社敷地内にある油井を案内してもらう。

「現在はポンピング・ユニットによる採油のみで、掘削は行っていません」

ティラノザウルスのようなかっこうをした機械がコックン、コックンと上下動を繰り返している。それがポンピング・ユニットで、動くたびに地下の石油層から原油と天然ガスのまじった水が汲み上げられる。それを分離し、原油はタンクに貯蔵、天然ガスはパイプラインで秋田市内のガス会社へ供給している。こうした油井が五〇ヵ所稼働しており、原油は日産五〇㌔㍑、天然ガスは同二万立方㍍。

「上総式四号井は廃坑となり、埋め戻してあります。これまでに掘った井戸は二四〇本。稼働中のものは深さ一八〇〇㍍級ですが、もし今後掘るとしたら、五〇〇〇㍍級になるでしょう」(板橋氏)

油田というと私は広大な砂漠地帯や大海原を想像する。ところが八橋の油井のある場所はほとんど借地だそうで、ポンピング・ユニットを囲む柵の周辺には住宅が密集している。いかにもわが国ならではの光景である。

▶昭和一〇年三月二〇日に大噴出した、日鉱の四号井。四月八日には、日石の油井も大噴油をみる。

朝日新聞社

ベストセラー

青成瓢吉に侠客・吉良常!青春小説の原型『人生劇場』

文壇の登竜門として知られる芥川賞と直木賞は、この年創設された。第一回受賞作は、芥川賞が石川達三の「蒼氓」、直木賞が川口松太郎の「鶴八鶴次郎」だった。このうち芥川賞は最終選考に、前記作のほか外村繁「草筏」、高見順「故旧忘れ得べき」、太宰治「逆行」、衣巻省三「けしかけられた男」が残ったが、その題材の同時代性と構成の確かさをおもな理由として前記作が受賞することになった。坪田譲治や島木健作、真船豊らも候補にあがりかけたが、すでにその力量が認められており、今さら賞でもあるまいと、候補からはずされている。

受賞作となった「蒼氓」は、折から政府が奨励していたブラジル移民に焦点をあてた。政府の援助を得て、多くの農民(その大部分は貧農の人々)がブラジルに新天地を求め船出していったが、同作品では、各地から集まってきた彼らの出航までがリアルに描き出された。

◀「蒼氓」(改造社、1円20銭)
日本近代文学館提供

同じ年に、現代青春小説の原型と目される、尾崎士郎の『人生劇場』(青春篇)が刊行されている。希望を胸に三河の国を出て東京の大学に進学した青成瓢吉がヒーロー。それに上海帰りの侠客・吉良常、料亭の女・お袖らがからんで、この時代ならではの青春像が生き生きと描かれた。作者自身も後に「これほどたのしい気持ちで小説を書きつゞけたといふことはなかつた。執筆当時の作者の心境が青春への訣別にふさはしいやうな哀愁にみちあふれてゐたせゐかも知れぬ」と記している(昭和二一年発行、酣燈社版のあとがき)。

またこの年「日本浪曼派」が話題騒然とする中で創刊された。亀井勝一郎、保田與重郎、神保光太郎らが中心となっていたが、その創刊の辞に「僕ら浪曼派を号へ、芸術の尊重を提げ、詩的精神の高唄を説き、芸術人的根性の顕揚を述ぶ……文学は今にして新しき不滅の開花に向かはんとするか」と格調高く宣言した。そして「敢て孤立の闘争を拒むことなきグループである」(編集後記)とも。

▶『人生劇場』(竹村書房、一円三〇銭)
日本近代文学館提供

▼「日本浪曼派」創刊号(武蔵野書院、30銭)

スターと名場面

「雪之丞変化」で一人三役!林長二郎が見せた"女形の美"

三上於菟吉の原作を、衣笠貞之助監督、林長二郎(後の長谷川一夫)主演で映画化した名作「雪之丞変化」がこの年の代表作だ。江戸時代の豪商の利権争いを発端とする仇討ち物語だが、林長二郎が、歌舞伎の人気女形にして仇討ちの主役でもある雪之丞と、彼をひそかに応援する盗賊・闇太郎、そして雪之丞の母親の三役をこなす大活躍。その美しさをスクリーン上で存分に披露し話題を集めた。主題歌「むらさき小唄」もヒットしたが、女形の魅力をたっぷり見せたのは、かつて女形のスターでもあった衣笠貞之助監督ならではの演出だった。

なお、この雪之丞は長谷川一夫の当たり役となり、昭和三八年には市川崑監督のカラー映画でリメイクされている。

現代劇では五所平之助監督の「人生のお荷物」が、中産階級の日常生活を描いて注目を集めた。田中絹代の洋服姿や、当時のモダンなライフスタイルを見ることができて面白い。また洋画では「外人部隊」がモロッコを舞台に、ちょっと変わった男の人生を見せて評判となった。

この年、ほかに次のような映画が公開されている。かっこ内はおもな出演者。「お琴と佐助」(田中絹代、高田浩吉)「明治一代女」(入江たか子)「未完成交響楽」(ハンス・ヤーライ)

マツダ映画社提供

▲「雪之丞変化」で雪之丞(左)と闇太郎(右)を演じて人気を呼んだ林長二郎。

▶お洒落な映画「人生のお荷物」で父親役を演じた斎藤達雄(左)と、娘で人妻役の田中絹代(右)。

マツダ映画社提供

▼「外人部隊」で主役を演じたピエール・R・ウィルム(左)とフランソワーズ・ロゼー(右)。
川喜多記念映画文化財団提供

モノ語り'35

「ハンザキヤノン」「アサヒスタウト」「パーコ瓦斯コーヒー沸器」"刺激的"な文化生活のための新商品!

◀**アマチュアカメラマンがふえていく** 普段はファインダーがボディの中におさまっていて、撮影する時にはボタンを押すと上に飛び出すという特殊構造を持った35ミリカメラ「ハンザキヤノン」が売り出され、アマチュアカメラマンを大いに刺激した。商品名の「ハンザ」は、卸業者の商標のひとつで、キヤノンはレンズをのぞく本体を作ったため、このような合体名で呼ばれた。なおレンズは日本光学工業(現・ニコン)が供給した。
日本カメラ博物館蔵／乙咩雅一撮影

▲**ビールも刺激の強いものが登場した** この年、大日本麦酒(現・アサヒビール)が発売した「アサヒスタウト」は、今の小瓶サイズのビールだったが、ギネスなどと同じ"上面発酵"という方法で生産された、濃厚なビール。いわゆる黒ビールの一種で、酸味とホップの苦みが強調されたビールでもある。

▲**災害時に役立つメディアとしてのラジオ** 電源を、交流と直流に使い分けることのできる「交直両用国防ラジオ」が前年に発売され、この年に普及していった。電灯線から電源を取る時は交流に、またそれが不可能な時は直流にして蓄電池を電源にすることができた。画期的な高機能ラジオであり、災害時を含む非常時用として期待された。
NHK放送博物館蔵　乙咩雅一撮影

▶**コーヒーをいれるのもガスで** コーヒーポットを直接ガスバーナーに接続して熱いコーヒーをいれる「パーコ瓦斯コーヒー沸器」が、東京瓦斯(現・東京ガス)から5円で売り出され、モダンなガス器具として注目された。対になったポットのひとつに水を入れ、もうひとつに挽いたコーヒー粉を入れておいてガスに接続、沸かした湯で自動的にコーヒーを作るというものだった。 がす資料館蔵

宣伝上手のガス会社

「パーコ瓦斯コーヒー沸器」の使い方は、カタログの中で、写真を用いて説明されたが、当時のトップモデルの女性を採用している。東京瓦斯は、この商品に限らず、ガスとガス器具の普及をはかるために、ポスターや広告など、さかんな宣伝活動を展開した。そして、購買動機を持ちうる女性層の目を引くために、モデルにも時代の先端を行くような女性を動員し、話題を呼ぶことが多かった。昭和11年に刷られた、ガスアイロンのカタログには、当時のトップスター田中絹代がモデルに起用され、大評判になったほどである

▲ガスアイロンの広告。モデルは、田中絹代。
がす資料館蔵

▼**ゲームにも時代の波が押し寄せた** この頃発売された人気ゲームに、「新兵器絵合せ」がある。赤軍と白軍に分かれて、一枚一枚裏返しで向かい合わせ、表に返して優劣を決める。司令部の札を全部取った方が勝ちというウォーゲームだった。 日本玩具資料館蔵

▲**自転車が重要な足だった時代の傑作** 現在の日米富士自転車が日米商店と称していた明治時代末期、イギリスから輸入した「ラーヂ号」が高級自転車として評判になったが、やがて国産化をはかるようになり、大正時代には社名も大日本自転車に変えて「ラーヂ富士号」を売り出した。これが昭和初期には、いかにも国産品らしく「富士覇王号」と名乗るようになり、ポスターや看板などの宣伝物には富士のマークを掲げ、戦後にいたるまでのロングセラーとなった。 (財)日本自転車普及協会 自転車文化センター蔵

人物クローズアップ

吉川英治（四三）

苦難の半生を映す“人生の書”大作「宮本武蔵」の連載開始！

◀昭和10年頃の吉川英治。東京・赤坂の自宅の書斎にて。11年から刊行された単行本『宮本武蔵』は、以後2000万冊以上も出版される。

昭和一〇年八月二二日、「東京朝日新聞」と「大阪朝日新聞」夕刊（八月二三日付）に、吉川英治（四三）作「宮本武蔵」の連載が始まった。

「――何うなるものか、この天地が。もう人間の個々の振舞ひなどは、秋かぜの中の一片の木の葉だ、なるやうになッてしまへ。

武蔵は、さう思つた。」

第一回目「地の巻」の書き出しである。全巻の構成は「五輪の書」の地・水・火・風・空に、二天と円明を加えた七巻からなり、連載は一四年七月一一日までのほぼ四年間、一〇一三回にわたった。

この連載は当初、二〇〇回で完結する予定だった。ところが、回を重ねるごとに読者はふえ続け、販売店に読者が群がる事態まで発生するにおよんで、回数は次々に延長されることになったのである。それまで宮本武蔵といえば、父の仇討ちをする講談の主人公として有名だった。それを吉川は、悩みを抱く一人の青年が、すべてを捨ててみずからを剣に託し、剣禅一如の境地を求めて研鑽を積む物語として描いたのである。それは、いわば“人生の書”でもあった。

◀剣禅一如の境地を求めて座禅を組む武蔵。挿絵は石井鶴三。

「名作挿絵全集」第5巻

吉川英治は、明治二五年八月一一日、神奈川県久良岐郡中村町根岸（現・横浜市中区）生まれ。青年期までの吉川の人生は、苦難に満ちた波瀾の日々と言っていい。一一歳の時、父の事業が失敗。一家は一気に没落した。長男の吉川は高等小学校を中途で辞め、わずかな日当を求めて職につかなければならなかった。酒に溺れる父、六人の子どもをかかえて一家を支えなければならない母。吉川はそんな母の姿を見ながら、できるかぎり母の手助けになろうと働いた。こうした辛酸を味わいながらも、子どもの頃から書物に親しんだ吉川は、新聞や雑誌への投稿を欠かさなかった。

吉川が作家活動に専念するようになったのは、大正一二年九月の関東大震災がきっかけだった。焦土と化し、すべてを失った人々を間近に見た吉川は、この先人々が苦難を克服し、強く生き抜くために役立つのは、大衆のための文学であると悟ったという。

出世作となったのが、翌一三年に講談社の「面白倶楽部」に掲載された「剣魔侠菩薩」だった。続いて「キング」に「剣難女難」、「少年倶楽部」に「神州天馬侠」、そして「大阪毎日新聞」「東京日日新聞」に「鳴門秘帖」を連載。これら続々と発表される作品によって、吉川は流行作家の地位を確立していく。

吉川英治の作品は膨大である。その後も「三国志」「新書太閤記」「新・平家物語」「私本太平記」など、大作を次々に執筆。こうした文学活動に対し、昭和三五年には文化勲章が授けられた。

吉川の文学には、一本の強靭な愛が貫かれている。

「若い頃に、言葉では言い表せないような苦労をしましたから、人の心に対する思いやりが非常に強かったと思います。それに、苦労を背負ったまま亡くなった母親への想い、それは終生変わることがありませんでした」

文子夫人の話である。

昭和三七年九月七日、肺癌に脳軟化症を併発して死去。七〇歳だった。

▲茶人・堀越梅子宅のお茶会で、当時の文学仲間と。左から森田たま、吉屋信子、吉川、川口松太郎、堀越梅子。

"武器は王国としての誇り！" ムッソリーニの侵略に抗した裸足のエチオピア軍兵士たち

◀丈の高い草むらにひそみ、裸足で突撃するエチオピア兵。白兵戦になると、旧式の小銃を捨てて槍や刀で斬りこむなど、近代兵器を繰り出したイタリア軍を相手に勇敢に戦った。

アメリカ国立公文書館　毎日新聞社

深い草むらの中を裸足で小銃をかまえたエチオピア兵が進んでいる。彼らの敵は、同じアフリカに住む他部族ではなく、近代的な装備を整えた四〇万のイタリア軍であった。

エチオピアはアフリカの中では最も古い王国のひとつで、このエチオピアとイタリアとの確執（かくしつ）は一八八五年にまでさかのぼる。イタリアは、紅海に面したエリトリア（エチオピアの東部）を保護領とし、内陸部のエチオピアそのものにも不平等な条約を押しつけ、実質的な植民地にしようと野心を燃やしていた。こうしたイタリアの露骨な侵略に対して、一八九六年フランスの支援を受けた皇帝メネリク二世率いるエチオピア軍は、アドワという町でイタリア軍一万七〇〇〇人を壊滅させた。これは、アフリカの小国がヨーロッパ列強に勝った数少ない戦いのひとつであった。

この"アドワの屈辱"を、実に三九年後、一九三五年になって持ち出してきたのが、一九二五年以降ファシスタ党の独裁体制を確立していたベニト・ムッソリーニ統帥（五二）だった。第一次世界大戦後のベルサイユ体制では、イタリアは戦勝国に属していたが、領土の画定など条約面ではその主張は入れられず、敗戦国並みであった。こうした不満を背景に、ムッソリーニはエチオピアへの権益を当然視する世論をかき立てたのである

軍事力の強化に取り組んでいたイタリアは、国境紛争を口実に、一九三五年一月から遠征部隊を続々と東アフリカに送り、国内ではエチオピア遠征を志願する市民の熱気が渦巻いていた。こうしたイタリアを牽制するためイギリスが地中海に艦隊を派遣すると、イタリア世論は憤激し「イギリス帝国は、（中略）イタリアが太陽の下にあるとるに足らぬ領土を持つことも否定するつもりか」（マクス・ガロ『ムッソリーニの時代』）と書き立てたのである。

同年九月二八日、エチオピアの皇帝ハイレ・セラシエ一世（四三）は全土に動員令を発した。エチオピア軍は七万五〇〇〇人と言われたが、近代戦争を戦い抜く装備もなく、まったく王国としての誇りのみを武器として侵略に立ち向かっていった。

一方イタリアでは、ムッソリーニがベネチア宮のバルコニーに姿を現し、「我々は四〇年間という間、エチオピアに対して隠忍を重ねてきた。もうたくさんである」と演説。ついに一〇月三日に戦闘は開始され、一〇月六日には因縁のアドワが陥落した。イタリア軍は、第一次大戦以降に開発された近代的な戦車や編隊爆撃に加え、毒ガスまでも使用したのである。

一〇月一〇日には国際連盟加盟国五〇カ国が、イタリアのエチオピア侵略を非難して経済制裁を行うことを決議した。しかし、この経済制裁もドイツなどが離反していて実効がともなわなかった。翌年五月五日にイタリア軍は首都のアジスアベバに入城し、皇帝ハイレ・セラシエ一世はイギリスに亡命する。

このエチオピア侵攻が世界に与えた影響は、予想外に深刻なものがあった。「共産主義者に対する番犬」として過小評価されていたファシスト政権が、実は世界の平和にとって、大きな脅威となることが実証されたからである。

▲全国から召集された農民兵を巡閲する、皇帝ハイレ・セラシエ1世。　INTERFOTO　オリオンプレス

◀「少女の友」昭和一〇年一月号の表紙の原画。一五年五月号を最後に中原の絵が消えると、同誌編集部には、数千通もの抗議が寄せられたという。
中原蒼二提供

美の出会い

少年・少女誌の黄金期に新風 「少女の友」表紙を飾った 中原淳一の“夢見る乙女たち”

▼「少女の友」昭和13年7月号表紙。執筆者には吉屋信子、川端康成などがいた。
中原蒼二提供

二二歳の青年・中原淳一が、実業之日本社から刊行されている月刊少女雑誌「少女の友」の表紙絵、口絵、挿絵を描き、付録の製作にもかかわるという大車輪の奮闘をしていた。昭和一〇年のことである。中原の手からは、大きな瞳をした手足の長い少女が次々と生み出されていく。その夢を追うような哀愁をおびた表情は、全国の少女たちから熱烈な支持を受けたため、編集部は企画会議にも中原を参加させ、アイディアを求めるほどだった。今や中原は、「少女の友」にはなくてはならない存在となっていた。

少年時代から、玩具で遊ぶよりも、読書したり、人形を作ったりすることに熱中していた中原は、ふとしたきっかけで昭和七年二月、東京・銀座の松屋で「中原淳一作・第一回フランス・リリック人形展覧会」を開催。この展覧会を見に来ていた「少女の友」の編集者から「雑誌の挿絵を描いてみる気はないか」と勧められたことから、中原は挿絵の仕事を始めることになる。中原を面接した編集長の内山基は、中原の絵を見るなり、竹久夢二や蕗谷虹児に続く才能を見抜いたに違いない。さっそく、挿絵の依頼をすると同時に、他社からの依頼をキッパリと断るよう約束させた。

この頃、大正期に起こった少年・少女雑誌の黄金時代が続いており、出版社にとっては、まさに戦国時代だった。内山の目に狂いはなく、中原の絵は一気に少女たちの人気をさらい、たちまちアイドル的な存在となった。こうして翌八年には、表紙絵もまかされるようになる。

少年・少女雑誌は、本体の読み物だけでなく、付録でも激しい競争を繰り広げていた。中原は、少女雑誌の付録が、粗悪なボール紙のハンドバッグなど、あまりにも子どもだましなものが多いことに納得できず、紙で作るものでももっとかわいいものがあるはずだと、編集部に注文をつけた。それなら君が付録の案を作ってくれと言われ、できることなら何でも自分でやりたいタイプの中原は、付録の製作にも乗り出し、付録の世界に大改革をもたらした。工夫を凝らされた付録「手芸の本」を見ると、そこには中原の絵がふんだんに使われており、スリッパやクッションの作り方が解説され、針さしまでがついていた。西洋文化の雰囲気を漂わす中原の付録は、少女たちの貴重な宝物となった。

少女たちの人気を一身に集めていた中原は、昭和一五年五月号を最後に、「少女の友」から突然に姿を消す。軍部から編集部に「中原の絵は軍の方向と逆行している」という圧力が加えられたのである。西洋の香りが漂うロマンチシズムを、少女たちに送り続けてきた少女雑誌のスター・中原淳一が、高まる軍国主義と相いれないのは、当然であった。

中原の次男・中原蒼二氏は「父は戦時下での自分の画風に悩んだようだし、またそういう状況下で無理に描くことにも嫌気がさして、おりてしまったのです」と語ってくれた。

抑圧された中原の才能が再び開花するのは、戦後の昭和二一年以降である。この年、中原はみずから「ひまわり社」という出版社を設立し、女性誌の「それいゆ」を、次いで翌二二年には少女雑誌「ひまわり」を創刊した。

「それいゆパターン」と言われて流行した髪型やファッション・デザイン、インテリアなど、中原のデザインは、若い女性たちの夢を乗せて、世を風靡していった。

▲中原アートの原点である人形。昭和6年制作。
中原蒼二提供

▲中原と葦原邦子。昭和15年結婚、葦原は宝塚のスターだった。

20世紀博物館

内藤記念くすり博物館

薬材になった動植物から技術・民俗にまでおよぶ資料群

岐阜・川島町

桑原茂夫

◀"定斎売り"。薬を入れた簞笥を振り分けにかつぎ、かちゃかちゃという音をさせながら、町を歩いていた。 藤原更

充実した博物館である。一万平方メートルという広い敷地内に、博物館の本館と展示館、それに植物園がある。博物館には四万八〇〇〇点におよぶ資料と二万八〇〇〇点の図書がコレクションされ、その一部が展示館で一般に公開されている。また植物園には、薬に用いられる六〇〇種類の草木が栽培され、直接観察できるようになっている。

このように記すと、量に圧倒されそうだが、実際にはわかりやすく整理・展示されていて、驚かされることの多いワンダーランドなのだった。

何よりも、薬のもとになった動植物などの多様さに驚かされ、それらを薬に活用してきた智恵と技術に感動させられ、人間はまさに自然とともにあるのだということを深く感じさせられてしまったのである。

薬のもととして用いられてきた動植物について言えば、ニッケイ（独特の香りがする、いわゆるニッキのこと）の木の皮＝桂皮や、トウキの根っこ＝当帰、ナツメの実＝大棗などの植物、タツノオトシゴ＝海馬、ミミズを乾燥させたもの＝地竜、セミの脱け殻＝蟬退、カモシカの角＝羚羊角など、これが病気にきく薬のもとになるのかと、不思議な感じがする。

また、たとえば江戸時代後期の外科医・華岡青洲のコーナーで、世界に先駆けて全身麻酔を成功させた薬に出会うと、やはり感動を禁じえない。そこにはチョウセンアサガオやトリカブトなど、猛烈な毒薬として用いられていたはずの植物が、麻酔薬のもととして並べられている。この植物園で実際に栽培されているそれらを目のあたりにすると、華岡青洲が自分の母親や妻を被験者にしてテストした時の心境とか、その製法を秘伝とした気持ちにまで、こちらの想像が広がっていくのである。

◀江戸時代に薬店にあって評判を呼んだ"人車製薬機"。大きな輪の中に二人入って輪をまわし、石臼をひいて薬草を粉にする。これはその複製。

ところで医療システムの発達した現代にあっても、各家庭に"常備薬"はおかれている。その常備薬を充実させたものに富山の薬売りによる置き薬がある。いざという時必要な薬をまとめておいていき、一年ごとに使った分だけ清算し、補充していくこの方法が、常備薬を備えやすくさせたのは間違いない。

このような薬売りに関する展示で、実は筆者個人にとって大きな発見があった。子どもの時、家にあった常備薬に「ぞさい」と聞こえる万能薬があって、ずいぶんお世話になったものだが、誰に聞いてもその実態はわからなかった。ところが、ここに"定斎売り"のコーナーがあって、薬売りの人形と、振り分けにしてかつぐ簞笥が飾ってあった。

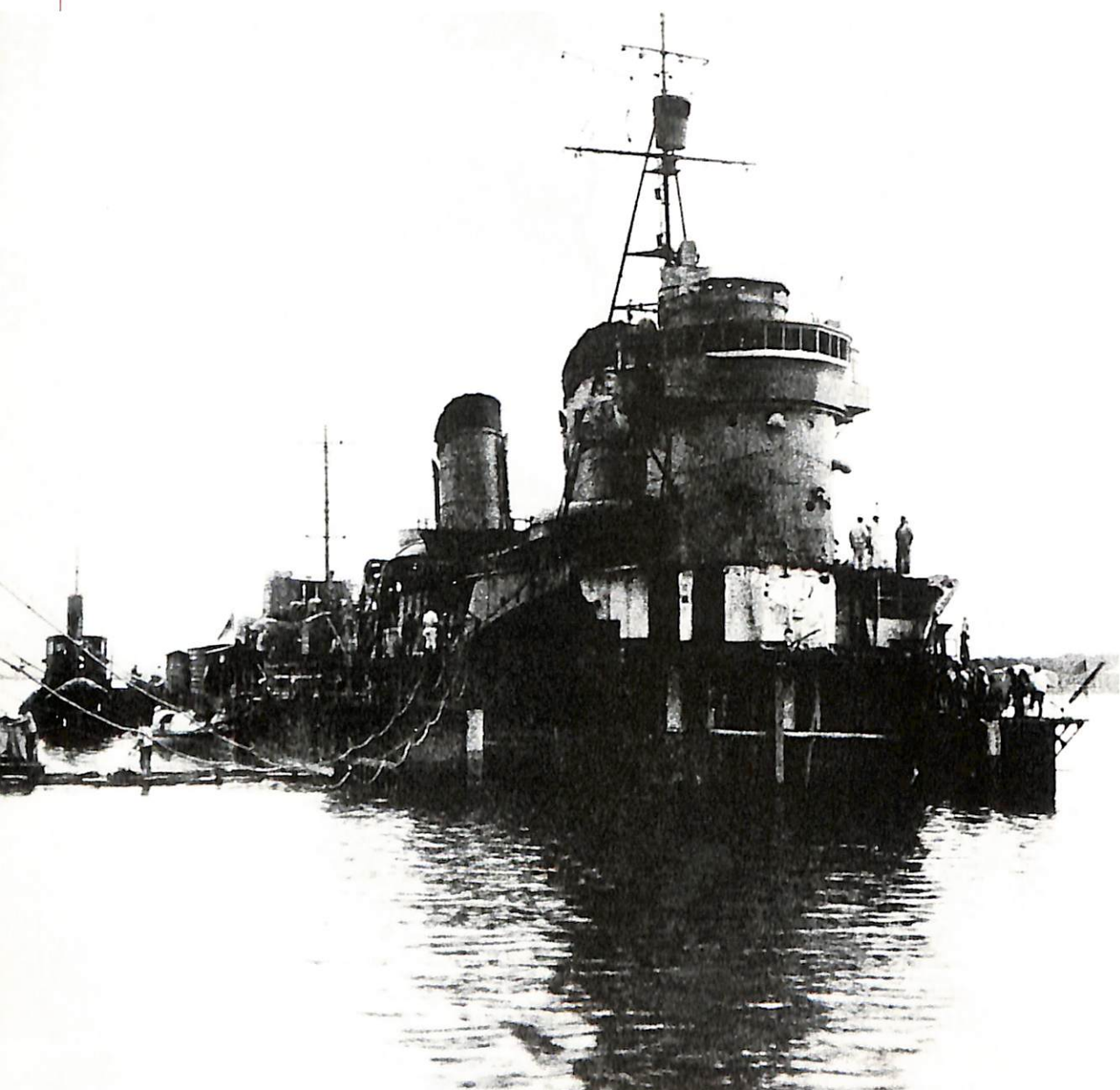
定斎は「じょさい」または「じょうさい」と読むそうで、簞笥の記憶と相まって、これが筆者の知っている「ぞさい」の正体であることが判明した。

エーザイ㈱の創業者でもある故・内藤豊次さんが、資料などの散逸をおそれて昭和四六年に資料館を開設、昭和六一年に博物館になったそうだが、まことに心地よく深みのある博物館であった。

●内藤記念くすり博物館
岐阜県羽島郡川島町 エーザイ川島工園内
☎〇五八六八九―二一〇一
JR尾張一宮、名鉄新一宮駅からバス小網行、くすり博物館下車すぐ
開館時間＝九時～一六時
休館日＝月曜日、年末年始 入館料＝無料

▶博物館正面。和風の立派な建物で、手前に薬草などの植物園が広がっている。

▲江戸時代の薬店の店先を原寸大で復元したもの。写真向かって右側には薬の看板が並び、左上の軒先には"袋看板"がぶら下がっている。紙製なので雨の日は中に取りこんだという。

悲劇の陰に艦隊派・条約派の"暗闘"
新鋭艦が次々と真っ二つに！
日本海軍を震撼させた「第4艦隊事件」

◀艦首が切断された「夕霧」。落下する三角波の打撃で、士官室を含む全体の約3分の1が流失、乗員27人が行方不明となった。

昭和一〇年七月、日本海軍は対米戦を想定した、実戦さながらの大演習を開始した。九月末の総仕上げは第一、第二艦隊からなる日本連合艦隊（青軍）とアメリカ海軍に見立てた臨時編成の第四艦隊（赤軍）の対抗戦として計画されたが、折からの台風で艦船は次々と損傷。この事件の背後には、海軍内部の強硬派による強引な軍備増強路線があった。

進路変更間に合わず艦隊は暴風圏に突入

昭和一〇年九月二五日、第四艦隊は津軽海峡東方に向け、次々と函館を出港した。参加艦艇は重巡洋艦「足柄」、軽巡洋艦「最上」、潜水母艦「大鯨」、そして輸送船など約四五隻、演習海域は青森県八戸東方約二五〇カイリ（四六三キロ）の北緯四〇度、東経一四四度付近であった。

速力はいずれも一〇ノット（時速約一八・五キロ）。この艦隊には新鋭艦や改装艦が多く、その性能には大きな期待が寄せられていた。特に特型駆逐艦は注目のまとだった。昭和五年のロンドン条約で課せられた不利な軍備比率（重巡洋艦は対米の六割、軽巡洋艦七割、駆逐艦七割）による劣勢をはね返すため、船体を軽量構

▼吹雪型駆逐艦「夕霧」。昭和5年12月竣工。ワシントン条約締結後に建造された軽量重武装の補助艦で、"特型"と称された。

▶応急処置をほどこした空母「龍驤」の通信長室。艦橋の前面が破損し、艦橋からの操艦が不能になっていた。

造にして装備を強化、駆逐艦ながら戦闘力は軽巡洋艦並みの艦艇であった。

しかし折あしく、中心気圧九五七ヘクトパスカル、半径二八〇キロ以内が暴風圏という猛烈な台風が、時速約六〇キロで演習海域に急接近していた。艦隊は台風を避けるために一時西方に反転しようとしたが、気象の悪化により断念。従来の進路を保つことになったため、第四艦隊の暴風圏突入は必至の事態となった。

艦隊が台風に最も接近したのは、九月二六日午後三時頃。平均風速は秒速三五メートル、突風は五五メートル、台風の進行速度が七〇から八〇キロという猛烈なものであった。しかも台風の中心から右後方には不連続線が発生したため、その両側の風向きがまちまちで、南東風による波、南からの波、南西からの波が衝突し、高さ一五メートル以上の巨大な三角波が次々に発生した。

午後五時、特型駆逐艦「夕霧」では、船首全体が大波に隠れ、すさまじい衝撃とともに、艦は再び頭をもち上げたが、その時には艦橋（ブリッジ）前方の船体はなくなっていた。次いで五時二五分、「初雪」も「夕霧」同様、艦橋直下の部分で船体が折れ、鋸で引き切ったように切断されてしまった。

損傷は相次いだ。空母「龍驤」は艦横前部破壊、同じく空母「鳳翔」は飛行甲板前端圧潰、重巡洋艦「妙高」は船体中央部外板の鋲接弛緩、そのほか駆逐艦数隻の船首や甲板などに危険な皺が発生。ほとんどの艦が被害を受け、第四艦隊は満身創痍となり、五四人の死者を出す大惨事となったのである。

▼空母「龍驤」。昭和8年5月竣工。艦型に比べ上層部が大きい。

演習強行の背後に海軍強硬派の存在

ただちに事故原因の調査と今後の対策のために軍事参議官・野村吉三郎大将を委員長とする査問会が一〇月一〇日組織され、一〇月三一日には小林躋造大将を委員長とする臨時艦艇性能改善調査委員会が設置された。

調査の結果、遭難の原因は船体強度が不十分なためであったが、実は特型駆逐艦の強度不足はすでに指摘されていた。

◀波浪のため大破・倒壊した、駆逐艦「睦月」の艦橋。死者一人を出した。演習に参加していた同型の「菊月」「三日月」の艦橋も破損。

大演習直前の七月上旬、「叢雲」が東京湾外で高速運転中、高波を受け船体にかすかな皺ができていたのである。

そこで牧野茂造船少佐は、艦政本部総務部長の豊田貞次郎少将に改造工事を行うよう進言したが、特型駆逐艦が演習に不参加となれば海軍の面目なし、とばかりに提案は握りつぶされたのだった。

強度不足を知りながら演習を強行した背景には、日・英・米・仏・伊の五ヵ国によるロンドン海軍軍縮条約と、これに先立つ大正一一年のワシントン条約をめぐる海軍内部の激しい暗闘があった。

条約を不満とし対米必戦論を唱える軍令部の加藤寛治大将、末次信正中将ら〝強硬派（艦隊派）〟は、対英米協調の観点に立つ山梨勝之進大将、寺島健中将ら〝柔軟派（条約派）〟を次々と追い落とし、軍備増強に突っ走っていった。

「押しつけられたロンドン条約や劣勢比率に対するノイローゼは、もともと合理主義をモットーとしてきた海軍内部に、反英米感情や海軍の体質になじまない一種の精神主義を浸透させていきました。その結果、造船学の常識を超えた過重武装を実現するため、造艦の責任者たちは、軍艦の安定性能をある程度犠牲にせざるをえなかったのです」

こう語るのは、元海軍中尉で青山学院大学教授の池田清氏である。

強度不足は、予想もつかなかった激浪であらわになった。このため、より激しい波浪条件に耐える強度設計が作成され、連合艦隊すべての艦艇が行動を一時中止し、船底に厚い二重板を貼りつけるなど、補強工事を受けることを余儀なくされた。工事は昭和一三年末までに終了したが、その後の日本海軍に大きな影響をおよぼしたのである。

「この短期間の改造工事は日本の造艦史上画期的なことでした。欠陥を完全に克服したからです。新造艦計画が二年ほど遅れ、昭和一六年一二月の日米開戦時の戦力が整わなかったのはマイナス面でした。しかし戦闘では負けたものの、日本海軍の艦艇が気象上の理由で損害を受けたことは一度もありませんでした」

こう語るのは、船艦研究家の阿部安雄氏である。この時の体験が後の超弩級戦艦「大和」など新建造船に生かされ、さらには戦後の「造船大国日本」の礎を築いたのである。

▼駆逐艦「睦月」。大正15年3月竣工。初めて61センチ魚雷発射管を装備した。

▲三陸沖を漂流する駆逐艦「初雪」の艦首。中に24人が閉じこめられていたが、救出の手だてもなく、機密書類の流出を防ぐため砲火によって撃沈された。

▲吹雪型駆逐艦「初雪」。昭和4年3月竣工。すっきりした船型が特徴。

▲高橋三吉海軍中将。昭和9～11年、連合艦隊長官。

▲末次信正海軍大将。昭和12年には内務大臣に就任。

▲加藤寛治海軍大将。ロンドン条約締結時の軍令部長。

毎日新聞社

▲静岡・清水地方に激震（7月11日）震源地は安倍川の中流で、M6.3。3000トン級が停泊できる清水港の岸壁が崩壊、9人が死亡し家屋363戸が全壊した。夕方から夜にかけて、清水市街全戸が停電した。

「国際写真新聞」

◀小唄勝太郎の大ヒット曲「島の娘」、米国で放送（7月4日）第159回アメリカ独立祭を記念して、ＪＯＡＫと米ＮＢＣが放送の交換を行ったもの。写真はスタジオでアメリカに向けて唄う勝太郎。

朝日新聞社

▲英国王・ジョージ5世の即位25周年奉祝の大観艦式（7月16日）祝典が荘厳、華麗に繰り広げられ、王室の威光が示された。が、翌年、ジョージ5世は70歳で世を去る。

毎日新聞社

▼イタリア、エチオピア侵略前夜（7月）植民地ソマリランドの国境紛争を口実に10月3日、侵攻開始。写真は大演習を視察するエマヌエレ国王（左端）とムッソリーニ首相。

「国際写真新聞」

▲「満州国」で列車襲撃事件（7月29日）京図線の営城子―土們嶺間で、新京発清津行き列車が約200人の反満抗日集団に襲われ、朝鮮人を含む11人が撃たれて死亡した。

資生堂提供

◀原節子、流行の水着姿（7月）この年、日活に入社し「ためらふ勿れ若人よ」でデビュー。背中を大胆に見せたバックレス型の水着がはやり、腰には蝶結びのアクセント。

昭和10年7月

1（月）●総武本線船橋―千葉間電化され電車運行開始。
2（火）●新聞社一九社と日本放送協会、同盟通信社設立を申請（11月7日認可）。
3（水）●瀬戸内海で大阪―別府航路の「緑丸」が「千山丸」と衝突し沈没。八六人死亡。
4（木）●東大教授会、田中耕太郎のローマ大派遣決定。
5（金）●ソ連、日「満」ソ国境共同委員会設置を受諾。
6（土）●日本郵船・大阪商船など四社が南洋海運設立。
7（日）●東京朝日・東京日日など八社、日曜夕刊廃止。
8（月）●九州財界の雄、熊本電気社長・上田万平、刺殺。
9（火）●東京商大の派閥争いから杉村広蔵助教授の学位論文が教授会不通過（商大事件の発端）。
10（水）●豪政府、日本製品に特別輸入許可制を実施。
11（木）●静岡地震、九人死亡、三六三戸全壊。
●前年の陸軍士官学校事件で停職中の村中孝次と磯部浅一、「粛軍に関する意見書」を配布。
12（金）●旧帝展第三部（彫刻）、第二部（洋画）に続き新帝国美術院に反対して絶対不出品を決定。
13（土）●福岡県の三井田川鉱でガス爆発。六六人死亡。
14（日）●パリで人民戦線大会。四〇万人がデモ。
15（月）●特急「富士」に「シャワーカー」連結され初運転。
●中央気象台、五〇年ぶり天気予報を大改正。
16（火）●陸軍省、教育総監・真崎甚三郎の更迭を強行。
17（水）●第一回文芸懇話会賞に横光利一と室生犀星。
18（木）●東京地裁、帝都教育疑獄事件で三四人に有罪。
19（金）●東京の中学教員約二〇〇〇人が大会を開き、文部省の中学校修業年限短縮案反対を決議。
20（土）●対カナダ通商擁護法発動。輸入税五割を付加。
21（日）●「八雲」「浅間」の練習艦隊、五ヵ月ぶり帰国。
22（月）●川崎市の小売商ら、京浜デパートを襲撃。
23（火）●反満抗日集団約五〇〇人、奈曼旗公署を襲撃、日本人署員ら五人を射殺し四人五四人を解放。
24（水）●郵便貯金額が三一億円を突破。
25（木）●第七回コミンテルン、人民戦線テーゼ採択。
26（金）●外務省の東亜発声ニュース映画製作所、「現代日本」全一〇巻の撮影計画を決定。
27（土）●日産自動車、大型車の製造開始を決定。
●馬島僴堕胎事件に連座の女医に懲役八ヵ月。
28（日）●呉海軍工廠で巡洋艦「最上」、竣工。
29（月）●日本人学生として東西アフリカ探検旅行に初成功の京大の山田学、猿などを連れて帰国。
30（火）●英でペンギン・ブックス創刊。
31（水）●愛媛県立宇和島高等家政女学校に、公立中等学校初の女性校長・田原照野が発令される。

証言・あの日この日

夢野久作（46）

7月19日（金）〈午前10時15分意識不明のまま父上絶命し給ふ。久保井氏、中島氏より葬式の事相談あり。余不満なりしも思ひ直して承諾。室田氏より命令あり〉（夢野久作『夢野久作の日記』）

この頃の青少年を虜にした大衆小説雑誌「新青年」を舞台に活躍した作家・夢野久作の父親は、頭山満の玄洋社につながる右翼運動の大物・杉山茂丸だった。政財界の裏舞台で暗躍し、帝国主義的植民地政策を推進した人物だったが、この日70歳で死んだ。早くから父と対立し、世話になりながらも父とは別の道を進んできた夢野としては、家族中心に静かに父の葬式を行いたかった。だが、政財界で活躍する父の友人や弟子たちがそれを許さない。茂丸が公人であることを理由に、葬儀を茂丸関係者にまかせてくれと要求され、夢野は渋々認めざるをえなかった。（山崎行太郎）

朝日新聞社

▲松山商業初優勝（8月21日）第21回全国中等学校野球大会で育英商業に6対1で圧勝、出場10回目の栄冠だった。写真は4回、右前打で二塁からホームインした千葉茂。

▶古川ロッパ、大あたり（8月2日）「東宝ヴァラエティ」を結成、この日、日比谷の有楽座で始まった「歌ふ弥次喜多」が人気に。右からロッパ、岸井明、徳山璉。

東宝提供

朝日新聞社

◀ロンドン―東京南回り初飛行（8月18日）ドイツの飛行学校で学んだ阿野勝太郎が操縦、クレム・イーグル型軽飛行機「青海号」は99日後のこの日、東京羽田飛行場に到着した。

▼陸軍軍務局長・永田鉄山、刺殺される（8月12日）皇道派・相沢三郎中佐が、彼らが偶像視していた教育総監・真崎甚三郎の更迭を、統制派・永田らの陰謀として凶行におよんだ。

毎日新聞社

◀京都・南座火事（8月15日）5階楽屋あたりから出火、12月恒例の顔見世興行で知られた大劇場の舞台や天井など3分の1を焼失。関西新派が公演中だったが、開場前のため被災者はいなかった。南座は元和年間に許された七座のうち、唯一存続したもので、昭和4年に改築されていた。

昭和10年8月

1（木）●中国共産党、抗日救国統一戦線を提唱。
●警視庁、無線自動車の使用を開始。
2（金）●古川ロッパ、有楽座に初出演。「歌ふ弥次喜多」などを上演。
3（土）●政府、「統治ノ大権八儼トシテ天皇ニ属スルコト明ナリ」とする国体明徴声明を公式発表。
4（日）●親日派の保安総隊長・劉佐周、灤州駅で暗殺。
5（月）●小池礼三、二〇〇㍍平泳ぎで世界新を記録。
6（火）●仙台市の東照宮拝殿から出火、全焼。
7（水）●選挙粛正婦人連合会結成。会長・吉岡弥生。
8（木）●東京市、市内のタクシー総数は一万一五八〇台、うち二五四六台はフォード車と発表。
9（金）●閣議、「満州国」治外法権撤廃の根本方針決定。
10（土）●第一回芥川賞・直木賞発表。石川達三「蒼氓」、川口松太郎「鶴八鶴次郎」ほか。
11（日）●講道館で第一回女子柔道指導者講習会を開催。
12（月）●永田鉄山軍務局長、相沢三郎に刺殺される。
13（火）●三重県に軽爆撃機墜落。見物人二十数人負傷。
14（水）●朝鮮北部で豪雨。雄基市水没し交通途絶。
15（木）●成瀬巳喜男監督「妻よ薔薇のやうに」封切。
●ヒトラー、天皇に「嵯峨天皇宸影」を贈呈。
16（金）●国粋大衆党総裁・笹川良一ら、恐喝で起訴。
17（土）●池貝鉄工所、超硬合金刃物の超高速旋盤発表。
18（日）●阿野勝太郎、ロンドン―東京間単独飛行成功。
19（月）●第一二回一高対三高庭球試合で三高応援団一五〇人がコートに乱入し大乱闘、数人負傷。
20（火）●初代女性アナウンサー翠川秋子、入水心中。
21（水）●全国中等学校野球大会で松山商が初優勝。
22（木）●吉川英治「宮本武蔵」、「朝日新聞」連載開始。
●兵庫県の眠り病（日本脳炎）患者一七八人に。
23（金）●蘭印（オランダ領インドシナ）政府、日本移民の新渡航を禁止。
24（土）●満州鉱業開発会社設立。石油など鉱業権掌握。
●二一日来の豪雨で青森・秋田県の一五五ヵ所で河川決壊、浸水田畑約五万七〇〇〇㌶。
25（日）●銀座飲食業組合が偵察機「銀座柳号」を献納。
26（月）●東京・永田町の星岡茶寮、軽い扱いに怒り罷業中の料理人一九人を解雇。
27（火）●帝国在郷軍人会、天皇機関説排撃を宣言。
28（水）●陸軍軽爆撃機、福島県沿岸に墜落。二人死亡。
29（木）●第一回日満経済共同委、新京（長春）で開催。
●巡洋艦「最上」「三隈」就役し第七戦隊を編制。
30（金）●理研、富士山頂で観測の宇宙線解析を始める。
31（土）●米、中立法制定。交戦国への武器弾薬を禁輸。

Smithsonian Institution／ユニフォト・プレス

◀**ハワード・ヒューズ、空の世界新(9月13日)**低翼単葉機に1000馬力のエンジンを搭載し、時速567キロを達成。従来の記録を60キロも上回った。29歳、独身で美男だったため、一躍全米の人気者になった。

新潟日報社

▲**新潟県新発田町で大火(9月13日)**午前3時40分頃、人家から出火、強い南風にあおられて目抜き通りを中心に全町の5分の1余の建物を焼失、負傷者125人を出した。写真は延焼を見つめる避難民。

◀**一高、駒場に移転(9月14日)**講堂に全校生徒約1200人が集合して別れの式を行い、訓練用の銃をかつぎ、東京・本郷から引っ越し先の駒場に向けて行進した。空いた本郷校舎には、東京帝大農学部が入った。

毎日新聞社

▲**林銑十郎陸相、辞任(9月4日)**前月の、陸軍史上空前とも言える永田鉄山軍務局長刺殺事件の責任をとって辞任、後任には川島義之大将が就任した。写真は送別会での林(左端)、右端は岡田啓介首相。

朝日新聞社

▶**外国生まれの日本人向け学校開校(9月10日)**東京・戸塚町の早稲田国際学院。ハワイやアメリカ生まれのハイスクール卒業生30人が大学をめざして、まず「サクラ読本」を学んだ。

そごう提供

▶**大阪そごう本店竣工(9月24日)**御堂筋ぞいに地上8階、地下3階の斬新な外観のデパートが誕生した。設計はこの頃モダニズム建築を次々に発表していた村野藤吾。建設は大倉土木。10月1日にオープンした。

昭和10年9月

1(日)●満鉄特急「あじあ号」、ハルビンまで延長運転。
2(月)●東京市内に屑拾い生活者は二万一一〇〇人、大卒の失業者もいると市社会局発表。
3(火)●日本主義労組による愛知県豊川鉄道争議、官憲の応援を得て要求貫徹で終結。
4(水)●林陸相、永田刺殺事件の責任とり辞職。
5(木)●農林省、国内保有馬一五〇万頭計画案を発表。
●西村式豆潜水艇二号、熱海沖で試運転に成功。
6(金)●小唄勝太郎、ビクターに契約解除を申し出る。
7(土)●八年度に中学生の一割が病気で死亡・退学、大半が結核と文部省発表。
8(日)●九大グライダークラブ、阿蘇で四時間一二分のグライダー飛行時間日本記録を樹立。
9(月)●岸和田紡績で女工が女性監督復職要求しスト。
10(火)●帰国子女の大学予備校、早稲田国際学院開校。
11(水)●陸軍士官学校卒業の溥傑(溥儀の弟)、帰国。
12(木)●東電の尾瀬ケ原での発電所計画が、湿原植物の天然記念物指定内定により頓挫と新聞に。
13(金)●新潟県新発田町で大火。七八〇戸焼失。
14(土)●一高生一二〇〇人、本郷から駒場へ引越行進。
15(日)●独でユダヤ人の市民権を剥奪し、ユダヤ人との結婚を禁止するニュルンベルク法公布。
●牧野正蔵、八〇〇㍍自由形で世界新を記録。
16(月)●ブラジルが移民法緩和し年内一万人増と判明。
17(火)●合併によって住友金属工業設立。
18(水)●美濃部達吉、起訴猶予処分が決定。貴族院に辞表提出し、学説不変と声明(21日取り消し)。
19(木)●松竹、浅草に国際劇場建設計画を発表。
20(金)●東京商大学生、教授会の内紛に抗議集会開催。
21(土)●豪州女学生親善使節三三人、横浜港到着。
22(日)●英経済顧問リースロス、「満州国」承認の代償に対中国共同借款を日本に提案。
23(月)●神兵隊事件五四被告を内乱罪で再起訴。
24(火)●多田駿「支那駐屯軍」司令官、華北五省に傀儡政権樹立の「北支五省自治政権」構想を提唱。
25(水)●茨城県日立鉱山で石灰山崩落。二六人が死亡。
26(木)●三陸沖で演習中の第四艦隊遭難。駆逐艦「初雪」など大破し、五四人死亡(第四艦隊事件)。
●台風二号で利根川氾濫。群馬で二一八人死亡。
27(金)●全産連、退職手当積立金法案反対を決議。
28(土)●外務省が外交官の国際結婚禁止通達と新聞に。
29(日)●日本労組総連合、定期大会でのメーデー廃止動議が採択されず労働組合会議を脱退。
30(月)●米南西部に世界一のボールダー・ダム完成。

朝日新聞社

▲**ロングスカート流行(10月)**昭和5年以降、都会の女性の洋装が次第に定着、髪はパーマをかけた短髪、スカートは筒形のロングスカートが目立った。写真は大阪市内で。

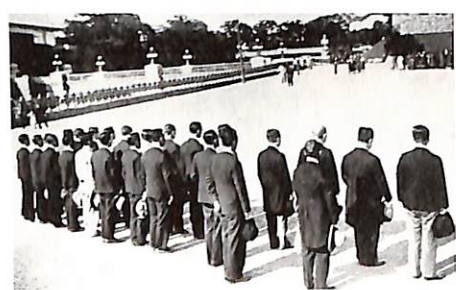
▶**第1回思想講習会(10月20日)**日本文化協会が東京で開催。左翼から転向し、失職謹慎中の元小学校教員18人が参加、精神修養を中心とした1週間のプログラムが、宮城遥拝(写真)で始まった。

「国際写真新聞」

「国際写真新聞」

▲**「眠り病」究明急ぐ(10月23日)**幼児を中心に夏頃から蔓延し、すでに東京で39人が死亡。北里研究所が病原体の研究発表(写真)。11月には東京帝大・三田村篤志郎らの蚊媒介説が出る。戦後、日本脳炎と認定。

朝日新聞社

▶**エジソン未亡人、73歳で幼なじみと再婚(10月)**「アメリカの発明王」と呼ばれたトマスとは4年前に死別。新しい夫エドワード・ヒュー(右)も2年前に夫人を失っていた。

「国際写真新聞」

▶**「無敵艦隊」帝都初訪問(10月4日)**連合艦隊120余隻が東京湾に続々入港、その威容を誇った。写真手前から旗艦「山城」、「扶桑」、「榛名」。

◀**第1回日本刀展覧会(10月25日)**帝展から締め出された日本刀匠協会が主催し、東京府美術館で開催。写真は21日、一般出品作を公開審査する審査員。中央が本阿弥光遜。

「国際写真新聞」

昭和10年10月

1(火)●第四回国勢調査(本土人口六九二五万人)。
●全国一万六〇〇〇の青年学校、開校。
2(水)●一般学校での宗教教育禁止緩和の答申案なる。
3(木)●伊、エチオピア侵攻(連盟、伊の侵略と断定)。
4(金)●海軍大演習で三艦隊一二〇隻が東京港入港。
5(土)●山田長三郎大佐、永田事件の責任を感じ自殺。
6(日)●ソ「満」国境付近で衝突事件勃発(綏芬河事件)。
7(月)●広田弘毅外相、排日停止・「満州国」承認・赤化防止の広田三原則を中国に提示。
8(火)●日本空輸、福岡—台北間の定期航路開設。
9(水)●パリから初のオペラ国際ラジオ放送実施。
●全国の小学校児童の一人一銭献金による軍用機資金三万七〇〇〇円を海軍省に献納。
10(木)●東京府下全中等学校の連合野外大演習実施。
11(金)●生計費調査で飲食費が年一六㌫高騰と新聞に。
12(土)●東京高速の新橋—渋谷間の地下鉄工事開始。
13(日)●軍部、国体明徴声明に機関説排撃明言を要求。
14(月)●第一回「紀元二千六百年祝典」準備委員会。
15(火)●政府、第二次国体明徴声明を発表。
16(水)●野口米次郎、カルカッタ大で教鞭のため渡印。
17(木)●二宮尊徳逝去八十周年記念祭、生地で開幕。
18(金)●満鉄付属地の法執行権に関する日「満」協定成立。
19(土)●日本入国を拒否されソ連からも拒否された神戸女学院教師ラスカ、往復四度でソ連上陸。
20(日)●中国紅軍、陝西省呉起鎮に到着し、第一五軍と合流し「長征」終結。
●全村民がキリスト教徒の長崎県黒島村の児童八百人余、黒島神社に初の集団参拝を行う。
21(月)●佐渡—東京間で鳩レース。一位五時間三四分。
●勲章疑獄で昭和四年に起訴された元賞勲局総裁・天岡直嘉、勲章一六個を返上。
22(火)●全国職業紹介所大会、事業国営化促進を決議。
23(水)●眠り病治療法につき北里研究所、研究報告。
24(木)●「五・一五事件」民間側判決(大川周明ら二人)。
25(金)●初の明治神宮奉納古武道形大会挙行。
26(土)●福岡県赤池炭鉱でガス爆発。八三人死亡。
●全日本プロゴルフで戸田藤一郎、初優勝。
27(日)●東京で観測史上最高の一時間七〇㍉降水記録。
28(月)●日米協会、来日の米副大統領など歓迎会開催。
29(火)●閣議、ロンドン海軍軍縮会議への参加を決定。
30(水)●共同漁業のトロール船「湊丸」メキシコに出発。
31(木)●伊政府、一九四〇年のローマ五輪開催を断念し開催権を日本に譲渡と発表。

▲太平洋横断定期便開始（11月22日）パンアメリカン航空の「チャイナ・クリッパー号」がサンフランシスコを出発、ホノルルなどを経由し、6日後、独立まもないフィリピンのマニラに到着。翌年から旅客運輸も。

▲築地中央卸売市場の魚類部開業（11月21日）昭和8年に完成しながら、商工省と問屋側が市場権問題で紛糾、やっと開業にいたった。1万人の小売商が入場行進。

▶名古屋市の熱田神宮が遷座祭（11月1日）明治26年以来の本殿修造が終わり、闇の中、仮殿から新本宮へ渡御。写真は前日、神宝讃合の儀に向かう桑原宮司ら祭員一行。

朝日新聞社

▼南九州で陸軍特別大演習（11月9日）天皇が見守る中、12日まで青・赤両軍による模擬戦が繰り広げられた。写真は10日、奉迎ムードの鹿児島市山形屋百貨店前で、宮崎の都城に向かう天皇を待つ小・中学生。

金子大提供

▲福田蘭童、川崎弘子と結婚（11月5日）洋画家・青木繁の子息で"遊び人"とされていた尺八の名手（30）と人気女優（23）が周囲の反対を押し切りゴールイン。仲人は菊池寛（右端）と松竹常務・城戸四郎（左端）。

▶親日派の汪兆銘、南京で狙撃（11月1日）中国国民党4全大会6中全会に中央委員として出席し、蔣介石・張学良らと歓談中、抗日派の新聞記者に撃たれた。写真は凶行直後の街頭。戒厳令が施行された。

「国際写真新聞」

毎日新聞社

昭和10年11月

1（金）●汪兆銘、南京で抗日派に狙撃され重傷。●前進座出演の映画「街の入墨者」封切。
2（土）●三浦環、伊より帰国し日比谷で独唱会開催。
3（日）●孫基禎、神宮大会マラソンで世界最高記録。●東京で父母と妹が日大生に保険金かけ殺害。
4（月）●築地本願寺で一三宗五六派集め全国仏教大会。
5（火）●吉野源三郎主任編集「日本少国民文庫」発売。
6（水）●東京・目白の銀行で日本無政府共産党・二見敏雄らが強盗未遂（11日アナキスト弾圧開始）。
7（木）●内務省映画検閲で二万㍍弱をカットと新聞に。
8（金）●大日本映画協会設立。映画の国家統制機関。
9（土）●鹿児島・宮崎で陸軍特別大演習、開始。
10（日）●米労働総同盟（AFL）内に産別労組会議結成。
11（月）●東京・芝浦に日本初の車庫つきアパート完成。
12（火）●全国収米予想は五七〇〇万石の凶作と新聞に。
13（水）●浜松高工教授・高柳健次郎、アイコノスコープ式テレビ送・受像機を完成し公開実験。
14（木）●抗日続く上海で租界への避難民が三万人に。
15（金）●フィリピン自治政府発足。ケソン大統領就任。
16（土）●三井家相続税は新記録二一五〇万円と新聞に。
17（日）●五輪フィギュア代表に一二歳の稲田悦子決定。
18（月）●文部省、国体明徴運動を教育・文化政策で具体化するため教学刷新評議会設置。●国際連盟、初の経済制裁を伊に対し発動。
19（火）●日本将棋連盟、昇段問題で紛糾し顧問ら脱退。
20（水）●日本人の平均寿命は男四四、女四六と新聞に。●吉本興業、浅草花月を開場。吉本ショウ開演。
21（木）●三田村篤志郎、眠り病は赤家蚊が媒介と発表。●東京・浅草で俸給ねらい初の青酸カリ殺人。
22（金）●白瀬中尉命名の南極地名を米が承認と新聞に。
23（土）●築地の中央卸売市場に魚類部新設、初ぜり。
24（日）●栃木県で発見の「南蛮屏風絵」を、米へ流出直前に資産家が買い取る、と新聞に。
25（月）●万里の長城以南の非武装地帯に日本軍の傀儡政権冀東防共自治委員会成立。委員長・殷汝耕。●朝鮮・長津江第一水力発電所が送電開始。
26（火）●西日本自動車業連盟、石油値上げ反対ゼネスト。大商会頭の調停で八時間で解除。●日本ペンクラブ（会長・島崎藤村）、発会式。
27（水）●陸軍第一期少年航空兵六九人の卒業式挙行。
28（木）●第二皇子誕生（義宮正仁親王、後の常陸宮）。●海軍、九三式魚雷を正式採用。
29（金）●小淵沢と小諸結ぶ「高原鉄道」小海線が全通。
30（土）●閣議、予算案を決定。軍事費は全体の四七％。

▲天皇家第2皇子、義宮正仁親王誕生（11月28日）12月4日に宮中で命名の儀が行われ、宮城前広場は奉祝の人々で埋まった。昭和39年津軽華子さんと結婚、常陸宮家を起こす。

毎日新聞社

▼職業野球球団の大阪タイガース誕生（12月10日）東京巨人軍（大日本東京野球倶楽部）に続く2チーム目。翌年5チームを加え、4月にリーグ戦が開幕した。

▲北平で抗日救国デモ（12月9日）1万余人の学生が華北の傀儡政権成立に対し「内戦停止、一致抗日」を叫んで激しく抗議、後の第2次国共合作を生む重要な契機となった。

▶賀川豊彦、米国で入国拒否（12月19日）この頃「神の国運動」を唱え、その講演のための渡米だったが、慢性トラホームを理由に上陸拒否。ルーズベルト大統領の指示で許可に。

「国際写真新聞」

朝日新聞社

▲街頭ラジオに人気（12月）この頃まだラジオは高嶺の花。東京・銀座の松屋向かいの井上ラジオ商会がニュースや歌謡曲を流すと、歩道はたちまち人だかりになった。

毎日新聞社

毎日新聞社

◀ロンドン海軍軍縮会議、開始（12月9日）日英米仏伊5ヵ国が参加。海軍大将・永野修身らは米国との兵力均等を求めたが容れられず、翌年1月、会議からの脱退を通告する。

昭和10年12月

1（日）●初の年賀郵便用切手発行。●常磐線・成田線で婦人行商人専用客車を連結。
2（月）●澄宮崇仁の成年式挙行、三笠宮家を創立。
3（火）●文部省、宗教団体法案要綱を省議決定。
4（水）●ストーブ用の電池式点火器発明、と新聞に。
5（木）●米国務長官、華北自治化阻止の声明を発表。●日本製鉄従業員組合、増配排撃運動を決定。
6（金）●六代目菊五郎の日本俳優学校と日大芸術学園の合併承認。日大付属日本俳優学校となる。
7（土）●東大生理学教室内に日本優生結婚普及会設置。
8（日）●出口王仁三郎ら大本教幹部三十余人、島根・京都などで一斉検挙（第二次大本教事件）。●関東軍支援の李守信軍、チャハル省へ侵攻。
9（月）●北平（北京）で学生一万余人が華北自治反対・抗日救国デモを決行（一二・九運動）。●東京区検、ボクサーのパンチを凶器と初認定。●日英米仏伊によるロンドン海軍軍縮会議開始。
10（火）●大阪野球倶楽部（大阪タイガース）、創設。
11（水）●内務省、次回総選挙の取締り緩和を通牒。
12（木）●年末・年始の国際電話料金が半額になる。
13（金）●小河内貯水池の早期着工求める村民千余人が東京市に向かおうとして警官隊と衝突。
14（土）●豊田自動織機、愛知県挙母町（現・豊田市）に五八万坪の土地を購入。
15（日）●法政大に学生初のフェンシングクラブ誕生。
16（月）●天理教本部など脱税容疑で一斉家宅捜索。
17（火）●米ダグラス社のDC3機、初飛行。
18（水）●日本軍の傀儡、冀察政務委員会成立式開催。
19（木）●賀川豊彦、病気で米入国拒否（大統領が許可）。
20（金）●対華北経済工作を行う興中公司設立。
21（土）●鐘紡が初の六時間労働の女工募集、と新聞に。
22（日）●内モンゴルの徳王、独立宣言。
23（月）●望月圭介逓相ら政友会脱退派、昭和会を結成。
24（火）●藤原歌劇団、プッチーニ作「トスカ」を上演。
25（水）●国民政府、抗日運動激化の上海などに戒厳令。
26（木）●牧野伸顕内大臣、辞任。後任に斎藤実を任命。
27（金）●東京の省線田端駅前に世界一の溶接道路橋、田端大橋が開通。全長一三五㍍。
28（土）●年賀状特別扱い累計が二億五〇〇〇万枚突破。
29（日）●満州で抗日集団がバス襲撃。一三人が死傷。
30（月）●日劇地下に初の報道・短編映画専門館が開場。
31（火）●年越しそばが一般家庭にも流行、と新聞に。●高勢実乗出演「怪盗白頭巾」封切。●東京放送局、「忘年演芸大会」放送。

我楽多市

◀東京・小石川の講道館で鏡開きが行われ、乱取稽古の後、しるこがふるまわれた。中央は講道館の創始者・嘉納治五郎。

流行語

“街のサロン”として定着

「純喫茶」。昭和一〇年は喫茶店が大流行し、東京だけで一万五〇〇〇店に達した。その中にはいかがわしいサービスを売りものにする店も多かったので、ラジオやレコード音楽を主とする店は一緒にされてはたまらぬと、“純喫茶”と名乗るようになった。その数ざっと三〇〇〇店、“街のサロン”として定着し、学生たちが一杯一五〜二〇銭のコーヒー代で一時間も二時間もすごすことも普通の風景になった。

「二人は若い」。この年は結婚ブームで、人々はあちこちで新婚さんの甘いムードを見せつけられた。「二人は若い」は一〇月封切の日活映画「のぞかれた花嫁」（主演・杉狂児）の主題歌だが、〽あなた、なぁんだい、あとは知らない、二人は若い……という甘ったるい文句が新婚さんの雰囲気にぴったりというので、子どもたちまで口ずさんだ。

「外人部隊」。この年公開された仏映画（主演・ピエール・R・ウィルム）のタイトル。軍の勢力はますます増長し就職難も相変わらず、学生たちの前途は暗かった。このため学生の間では「いっそ外人部隊にでも入ろうか」という会話が流行した。

ファッション

ポイントはムダ毛取り 電気分解術も登場

昭和一〇年、女性のお洒落で特に目立ったのは、手足のムダ毛を取るための脱毛剤と毛染めが流行したことであった。脱毛剤としては硫化物を主剤としたクリームや脱毛液が使われたほか、ムダ毛の電気分解術も登場して人気を集めた。毛染めの方はそれまで中年女性の「白髪」染めがほとんどだったのに、この年は若い女性が黒い髪をよりみずみずしく見せるために染めるのが中心になった。

数年前から始まったパーマの流行が髪のスタイルの美しさを求めたのに対し、この年のお洒落は、体のムダ毛をはぶき、黒髪を一層輝いて見せることによって、より洗練された美しさを追い求めたのであった。

（野口佳子『家庭からの昭和史』）

CM100年　新聞CM「レートクレーム」（平尾賛平商店）

▲昭和7年の「肉弾三勇士」をもじった広告。各社が同様の広告を作り、広告界にも戦意高揚ムードが押し寄せてきた。

子ども

一日の“観客”六〇万人 紙芝居の全盛期

東京で紙芝居業者が素晴らしい勢いでふえている。市社会局の調査によると、市内の紙芝居業者は約二〇〇〇人。一人の業者が一日一〇回興行し、内輪に見積もって三〇〜五〇人の子どもを集めるから一〇回では三〇〇〜五〇〇人。総勢では六〇万から一〇〇万人の子どもを引きつけていることになる。子どもたちが喜ぶのは活劇、悲劇、マンガの三種で、中でも時代劇や戦争ごっこが好かれている

（「東京朝日新聞」六月一〇日）

◀澄迷二が描いた「ポスター」。有産階級と無産階級が関心を持つポスターの内容の違いを表現。「東京パック」九月号。

© 大宮市立漫画会館　日本漫画資料館提供

海外

イギリスで大流行 ペットの豚飼育

〔ロンドン発〕イギリスで豚を愛玩用に飼うことが流行している毛並みのきれいな子豚を買ってきて、散歩に連れ歩いたり、いろいろな芸当を仕こんで楽しむもので、豚用の散歩着や風邪予防の腹がけを着せるご婦人方もいる。一方、殿方の間では豚を猟犬代わりに訓練する人もいて、その名人としてジェームス・ハーストという人の名前が取り沙汰されたり、豚を猟犬に仕立てるにはウズラの骨を食べさせるのがよいといった解説書も出版され、人気を呼んでいる。

（「日曜報知」七月七日）

三面記事

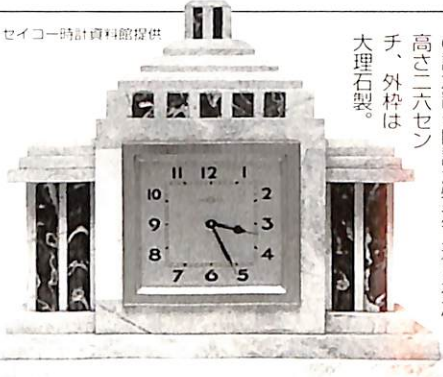
広重の絵にスパイ容疑!?

東京・銀座の審美書院と言えば、三〇年近く浮世絵の出版を続けてきた老舗であるが、このほど同社が出版した安藤広重の風景画「阿波鳴門」が要塞地帯法に触れるとして、和歌山憲兵隊に摘発され、責任者が東京憲兵隊の厳しい取り調べを受けた。同憲兵隊によると、この絵は鳴門海峡の激しい渦巻とともに、点々とする島や山を描いているが、「その風景がたとえ遠望とはいえ、さすが大家の手になるだけに技巧には真に迫るものがあり、それ故現在の要塞地帯を推測させるに十分である。このようなスパイを利するような絵を出版するのはけしからん」というのである。

結局、同憲兵隊では、複製の木版刷りのうち残品は没収、今後の出版はいっさい禁止するという処分で責任者を放免したが、出版社側は「スパイを利するつもりがあったかどうかは、作者が浮世にいないので確認のしようがない」と、皮肉たっぷりの感想をもらしていた。

（「読売新聞」五月五日）

▶大阪・難波駅の切符立ち売り人。市電とバスの回数券をバラ売りし、わずかな差額を稼ぐ商売だった。

朝日新聞社

◀翌年一一月落成予定の国会議事堂型の記念置き時計が特注で造られた。高さ二六センチ、外枠は大理石製。

セイコー時計資料館提供

社会

乗り越しの珍記録 汽車であちこち八日間

〔下関発〕大阪の芸者せん、こと柳千代子さん（二八）が愛媛県の実家に帰り、大阪へ戻る途中、乗り越し乗り違えの連続で、八日間も行きつ戻りつするという珍記録を作った。始まりは連絡船で、高浜港から岡山県宇野港へ向かったが、どう間違えたか二往復し、やっとのことで岡山から上り列車に乗った。しかし京都まで乗り越したため戻ろうとして、誤まって北陸線に入り、富山県三日市駅で下車。さらに滋賀県米原駅で急行列車に乗り、とうとう山口県の下関まで来たもの。

（「大阪朝日新聞」三月一二日）

犯罪

ねらいは胃弱の看守 共産党員の知的“脱獄”法

昨年、新潟警察署の留置場から脱走し、東京の同志の家に隠れていた共産党員（二八）が警視庁に逮捕された。この男は新潟署に留置されるとただちに胃弱をよそおい、看守の中で同病のものと仲良くなった。以来、運動の時間ごとに自分と看守の体力の差を測定し「この看守なら逃げ切れる」と確信、彼が夜勤の日に脱走した。

（「犯罪実話」一一月号）

◀農山漁村経済更生運動で成果をおさめ、表彰された千葉県富崎村の海女たち。

クロマート

この年の初もの

一日六時間制労働 鐘紡兵庫工場で実施

●パーキングメーター　米オクラホマシティに登場。六平方メートルの駐車スペースがあり、五セント玉を入れる機械が設置された。

●日本初のヘビー級試合　ハワイやアメリカ、フィリピンの選手を招待、東京で興行。

●お風呂列車　東京―下関間の特急「富士」にお目見え。入浴料三〇銭で石鹸とタオルつき。

●雪祭り　北海道・小樽の北手宮小学校で生徒たちが企画。

はやり歌

大江戸出世小唄

作詞　湯浅みか　作曲　杵屋正一郎

土手の柳は　風まかせ
好きなあの子は　口まかせ
ええ　しょんがいな
ああ　しょんがいな

きりょう良いとて　自惚れな
どうせ一度は　散る花よ
ええ　風が吹く
ああ　風が吹く

どうせ散るなら　このわしに
なびく気持は　ないかいな
ええ　ままならぬ
ああ　ままならぬ

無理になびけば　そりゃ野暮よ
なびく時節が　来るまでは
ええ　かまやせぬ
ああ　かまやせぬ

▶同名の松竹映画の主題歌。主役・高田浩吉がみずから歌い、歌う映画スターの登場という話題性もあり、ヒットした。

マルベル堂提供

明治一代女

作詞　藤田まさと　作曲　大村能章

浮いた浮いたと　浜町河岸に
浮かれ柳の　はずかしや
人目しのんで　小船を出せば
すねた夜風が　邪魔をする
（台詞省略）
怨みますまい　この世のことは
仕掛花火に　似た命
もえて散る間に　舞台が変わる
まして女は　なおさらに

意地も人情も　浮世にゃ勝てぬ
みんなはかない　水の泡沫
泣いちゃならぬと　言いつつ泣いて
月にくずれる　影法師

野暮なお客の　情けは受けぬ
いとし仙さま　あなたゆえ
辛い涙に　まことを誓い
明日をたのみに　楽しみに

◀流行作家・川口松太郎原作の映画「明治一代女」の主題歌。芸者から「はんや節」でデビューした新橋喜代三が歌う。

福田俊二提供

▶大連の自転車屋・日米商店。店頭で紙芝居を上演し、子どもたちが群がった。

杉本徳太郎

世界の動き

アメリカ、大恐慌から蘇る ベニー・グッドマン楽団の〝ホット〟な演奏で 一夜にして「スウィング時代」開幕！

アメリカが大恐慌の痛手から立ち直りかけていた一九三五年、人々の希望を象徴するかのような〝ホット〟な音楽が全米に響き渡った。ベニー・グッドマン楽団が演奏した「スウィング・ミュージック」は、あっという間に大衆の支持を得て、その後一〇年間にわたって、老いも若きもスウィングのリズムとジッターバグ（ジルバ）に熱中したのだった。

〝奇妙な〟響きの音楽が一夜で大衆を虜にした

一九三五年八月二一日、二六歳になったばかりのバンド・リーダー兼クラリネット奏者、ベニー・グッドマンは、沈鬱な気持ちでロサンゼルスのダンス・ホール「パロマー・ボール・ルーム」のステージに立っていた。結成まもないレギュラー・バンドを率いての大陸横断演奏旅行の間、持ち前の〝ホット〟なサウンドはまったく観客に受けなかった。デンバーのダンス・ホールでは、四週間の契約を一日で解消される始末。ツアー最終日のこの夜も、甘ったるいダンス音楽（スウィート・サウンド）を演奏するはめになっていたのである。

しかし、ステージが終盤にさしかかった時、「これがバンドとして演奏する最後の機会になるかもしれない」と、グッドマンは、思い切って〝奇妙な〟響きのする譜面を演奏することにした。曲目は「シュガー・フット・ストンプ」。

ドラムのジーン・クルーパ（二六）がたたき出す強烈なリズムに乗って、歌うようなサックス、パンチの効いたブラスが響く。圧巻はトランペットのバニー・ベリガン（二六）による灼熱の即興演奏だった。受けるか否か、半信半疑のまま始めた演奏だったが、観客はダンスをやめてバンドの周囲に集まり、じっと聴き入り始めた。そして演奏が終わった時、ホールは割れんばかりの拍手に包まれていた。「スウィング時代」が幕を開けた瞬間である。この日を境にラジオやジューク・ボックス、ダンス・ホールからはスウィングが流れ始め、数ヵ月のうちにアメリカの大衆は、その〝ホット〟なサウンドに夢中になっていた。

一九二九年一〇月のニューヨーク株式市場の大暴落に始まった「大恐慌」は三三年に底を打ち、ルーズベルト大統領のニューディール政策のもとで、アメリカ経済はようやく息を吹き返しかけていた。「大不況に回復のきざしが見え始め、娯楽を楽しむ余裕も出てきた。人々は明るさを求めていたんです。そこに現れたのがスウィングとワイルドなダンス、ジッターバグ（ジルバ）だった」と音楽評論家の瀬川昌久氏は語る。

さらにグッドマンの音楽を取り上げた「ライフ・マガジン」誌が、「黒人専用の音楽・ジャズは消滅した。黒人のジャズよりも、さらに洗練された白人用の音楽がスウィング」と定義したことで、白人大衆はスウィングを抵抗なく受け容れた。実際には、グッドマンの〝奇妙な〟響きの譜面は、ビッグ・バンドを率いて活躍した黒人ジャズマン、フレッチャー・ヘンダーソンの編曲。まぎれもないジャズだったのだが……。

ジッターバグに明け暮れたスウィング時代の一〇年間

「スウィング時代」の幕開きとともに、続々とスウィング・バンドが名乗りを上げた。グレン・ミラー楽団、アーティー・ショー楽団、トミー・ドーシー楽団……。バンド・リーダーたちは映画俳優並みのスターになり、大学生の部屋にはハリウッドの女優と並んでバンドの専属女性歌手のピンナップが貼られた。

中でも人気ナンバーワンのグッドマン楽団は、次々と伝説を生み出した。

一九三七年三月一〇日から五日間出演したニューヨークの映画館・パラマウント劇場では、早朝から切符売り場に長蛇の列ができて、交通整理に騎馬警察官が出動するありさま。午後三時までの入場

ユニフォト・プレス

◀〝スウィングの王様〟ベニー・グッドマン。クラリネット奏者として、クラシック音楽の分野でも高い評価を得た。

▶ハリー・ジェイムズ。グッドマン楽団のトランペット・ソロを経て、一九三九年に楽団を結成。

▶グレン・ミラー。トロンボーン奏者。「ムーン・ライト・セレナーデ」などの大ヒットを飛ばした。

▶トミー・ドーシー。トロンボーン奏者。フランク・シナトラは、ドーシー楽団の専属歌手だった。

▶アーティー・ショー。クラリネット奏者。「ビギン・ザ・ビギン」の大ヒットで知られる。

SHOOTING STAR　PPS（4点とも）

▶1937年に人気爆発したダンス〝ビッグ・アップル〟を踊るティーンエイジャー。

外から見たNIPPON

繆斌を対日和平工作にかりたてた「王道と日本」

佐伯 修

▲昭和二〇年三月、和平工作のため来日。

「満州事変」と日中全面戦争のはざまにあたるこの時期、日中両国の政府間関係は、表面上平穏だった。しかし、日本の中国に対する勢力拡張の動きは、華北への経済的、政治的圧力の強化などの形で、やむことがなかった。そんな中、この年、元中国国民党中央執行委員・繆斌（一八九九～一九四六）は、「中日危機の猛省」と題する文章を発表した。

この中で、彼は、大正四年の「二一ヵ条要求」以後の日本の侵略的傾向を、西欧帝国主義の模倣と見て、「現在の日本は、王道の名のもとに、覇道を行わんとしているようである。これは過去数十年に亘る西洋化が深く人心に食い入ったのである」と断じている。そして、日中問題解決のために、日本には「第一にその覇道的武力圧迫をやめ、王道主義に立って中国の更生を援助」することを、中国には、日本への理解を求め、日中がともに手をたずさえて「東洋の王道主義を復興」すべきだと説いた（横山銕三『「繆斌工作」成ラズ』による）。

「王道主義」という言葉に見られるように、繆は、儒教（陽明学）や仏教など、東洋の伝統的な精神文化に基づく政治を理想としていた。そんな一種の復古思想家だった彼は、同時に、一時、蔣介石、周恩来、葉剣英らとともに、革命的軍人の養成所「黄埔軍官学校」の指導陣に名をつらね、反軍閥の闘士でもあった。一般に、二〇世紀中国の革命家は、欧米近代合理主義か社会主義のいずれかの信奉者だったと考えられがちだが、そうとばかりは言えないのである。

さて、繆斌は、日本を、中国とは「同文同種」とは言えないが、精神文化を共有し、彼が「覇道」とみなす、西洋の物質主義や共産主義に対抗するうえで、互いに不可欠な〝同志〟とみなしていた。第二次大戦末期、汪兆銘政権の考試院（人事院）副院長だった彼が、蔣介石と日本の間に立って、和平工作に奔走したのも、そんな日本の全面崩壊を食い止めたかったからである。しかし、昭和天皇とその側近は彼を信用せず、この「繆斌工作」は挫折、戦後、繆も中国で不可解な経緯のうちに処刑された。

繆が蔣介石の正式な使者で、彼の行動がアメリカの内諾も得ていたとする説が正しく、「工作」も成功していたら？　日本の戦後は、旧勢力が温存されることで、より混沌としたものになったかもしれぬ。が、時期的に沖縄戦には間に合わなかったが、広島、長崎への原爆投下やソ連の対日参戦は阻止できた可能性が高かったのである。

者は開場以来の記録となる一万一五〇〇人を数え、グッドマン楽団が登場すると、会場には「大晦日のタイムズ・スクウェアのような歓声」が沸き起こった。そして演奏が始まるや、聴衆は劇場の通路でジッターバグを踊り出したのである。さらに三八年一月一六日、クラシック音楽の殿堂、ニューヨークのカーネギー・ホールで行った公演では、チケットは即日完売。その人気は頂点に達し、貧しいユダヤ系移民の息子、ベニー・グッドマンは名士、富豪の仲間入りをして、「キング・オブ・スウィング」の名声をほしいままにしたのだった。

一九三〇年代後半になると、スウィング熱は頂点に達した。フレアー・スカートにサドル・シューズを履いた娘たちがボーイフレンドとジッターバグに明け暮れ、その父母たちも週末のダンス・ホールにかよいつめた。そして、「シング・シング・シング」「イン・ザ・ムード」「ムーン・ライト・セレナーデ」などの名曲が、アメリカ全土に響き渡っていたのである。

しかし、三九年にヨーロッパで、四一年に太平洋で戦火があがると、「スウィング」は次第にその力を失っていった。戦時特別課税としてダンスに税金がかかるようになり、スウィング・バンドの舞台は激減。また、バンドのメンバーも次々に戦場へと向かった。海軍に志願し軍楽隊を率いて慰問にまわったグレン・ミラーは、ヨーロッパ戦線で消息を絶つという悲運に見舞われた。

「音楽面でも、一九四〇年代前半には大きな変化が起こりました。フランク・シナトラのようなスウィング・バンドから独立した歌手がポピュラー音楽の主役になり、また『ビ・バップ』という新しいスタイルがジャズの主流になっていった。戦争が終わった時、もはやスウィング・バンドは昔日の人気を取り戻すことができなかったのです」（瀬川氏）

スウィング・バンドが次々と解散に追いこまれる中、四六年にはベニー・グッドマンもレギュラー・バンドを解消する。アメリカ文化の支配的潮流になった「スウィング時代」は、ここに幕を閉じたのだ。

ベニー・グッドマン（1909～1986）
アメリカのジャズ・クラリネット奏者。一九三五年自己のバンドを結成、「スウィング」の黄金時代を築く。一九五七、六四、八〇年来日。作品に「メモリーズ・オブ・ユー」など。

PPS

▲「メトロノーム・オールスターズ」。1940年、「メトロノーム」誌の人気投票で選ばれた、バディ・リッチ（ドラム）、トミー・ドーシー（トロンボーン）、ベニー・カーター（サックス）、そしてグッドマンらの一流プレーヤーたち。

往きて還らぬ

▲8月30日　H・バルビュス（62）
仏の小説家。1916年『砲火』を発表（ゴンクール賞受賞）、名声を確立。モスクワで死亡。ほかに『地獄』など。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲7月12日　A・ドレフュス（75）
仏の軍人。1894年スパイ容疑の「ドレフュス事件」で流刑に処されたが、作家ゾラなどの尽力で無罪に。

▲3月26日　与謝野鉄幹（62）
歌人。明治33年歌誌「明星」を創刊。妻の与謝野晶子と短歌の革新運動を展開。詩歌集『東西南北』など。

▲2月1日　初代中村鴈治郎（74）
歌舞伎俳優。明治11年中村鴈治郎を名乗り、大阪劇界の重鎮となる。「河庄」の治兵衛など和事の名手と言われた。

▲9月8日　床次竹二郎（68）
政治家。鉄道院総裁を経て、大正3年衆議院議員（以後連続当選8回）。13年政友本党を結成して総裁となった。

CORBIS-BETTMANN PPS

◀5月13日　T・E・ローレンス（46）
英の元軍人。第一次大戦後、アラビア独立のために活躍し、「アラビアのローレンス」と呼ばれたが、交通事故死。

▲2月28日　坪内逍遙（75）
小説家。明治18年『小説神髄』を発表、24年雑誌「早稲田文学」を創刊。『シェークスピヤ全集』の翻訳も手がけた。

▲11月19日　山脇房子（68）
教育者。明治23年下田歌子らと大日本教育婦人会を結成。36年山脇女子実修学校（後の山脇学園）を創設。

◀6月29日　牧逸馬（35）
小説家。「丹下左膳」の生みの親。林不忘・谷譲次などのペンネームで、時代小説・通俗小説・推理小説を発表。

▲12月31日　寺田寅彦（57）
物理学者、元東大教授。X線の結晶構造解析研究で知られる。大正6年学士院恩賜賞受賞。名随筆家でもあった。

毎日新聞社

▲7月19日　杉山茂丸（70）
右翼の大物・頭山満の片腕と言われ、台湾銀行・満鉄設立などにかかわる。作家・夢野久作の父。著書『百魔』など。

毎日新聞社

▲7月3日　A・G・シトロエン（57）
仏の自動車王。理工科学校時代から天才技術者と言われ、1919年シトロエン完成。ヨーロッパ初の大量生産に成功。

▲3月20日　速水御舟（40）
日本画家、大正6年発表の「洛外六題」が絶讃される。8年事故で左足を失うが、以後も「炎舞」「樹木」などを発表。

既刊47冊！ 1940・1950・1960・1970年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第48号 1月27日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1936［昭和11年］

●特集
「前畑がんばれ！」の陰に、孫基禎の悲劇／第11回ベルリン五輪の「光と影」／重臣を殺害、青年将校が"暴発"　クーデター「二・二六事件」勃発！／中国の転換点、驚愕の「西安事件」と張学良の悲劇／英国王エドワード八世退位！　シンプソン夫人との"王冠を賭けた恋"

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…独軍、ラインラント進駐(3月7日)／関脇双葉山、全勝で初優勝(5月24日)／仏で人民戦線内閣発足(6月4日)／渡辺はま子の歌「忘れちゃいやよ」発禁(6月26日)／スペイン内戦始まる(7月18日)／「ひとのみち教団」弾圧(9月28日)／日独防共協定、ベルリンで調印(11月25日)

●人物クローズアップ
阿部定、衝撃の血文字の真意

●決定的瞬間
キャパの"一枚"「崩れ落ちる兵士」

●美の出会い
柳宗悦の悲願、日本民藝館オープン

●女たちの肖像…宇野千代、「スタイル」創刊／**勝者・敗者**…日本サッカー、五輪で大殊勲！／**証言・あの日この日**…三木清、水上滝太郎／**「現場」を歩く**…永田町、国会議事堂と"閉鎖性"／**20世紀博物館**…シルク博物館(神奈川)／**外から見たNIPPON**…"スパイ"ゾルゲと「二・二六」

●ベストセラー…北條民雄『いのちの初夜』／**スターと名場面**…片岡千恵蔵の二役「赤西蠣太」／**モノ語り'36**…「自動首振型電気扇」「食パン焼」「スクリッパ」

ミニ事典
1935年のキーワード

「世界文化」
京大文学部出身の中井正一、真下信一、新村猛ら若手研究者によって編集された思想・文化雑誌。京都の世界文化社が二月一日創刊。A5判七四ページで、「国体明徴」が叫ばれる折、ヨーロッパ人民戦線の活動や反ファシズム思想家・学者らの論文を積極的に掲載、知識人に大きな影響を与えた。しかし二年後、中井らが治安維持法違反で検挙され、昭和一二年一〇月号で廃刊となった。

青年学校
小学校卒業者で上級学校に進学しない勤労青少年に対して、統一的な教育を行うために設けられた学校。従来の青年訓練所と実業補修学校を統合。男女とも国家意識を徹底することを重要な目的とした。四月一日、青年学校令、青年学校教育養成所令が公布され、一〇月一日、全国一万七〇〇〇校が開校。本格的な戦時体制に突入した昭和一四年には、法改正により男子は義務制となった。

▲甲府市の相生青年学校では山道の交通に、300人の自転車隊を組織した。7月撮影。

臨時利得税法
昭和四～六年度の三年間の平均利益率で計算した利益額を超える利益について、さらに課税の対象とする税法。法人は一〇パーセント、個人は八パーセントを徴収した。三月三〇日公布、四月一日施行。増大する軍事費の財源を捻出するため、財界の反対を押し切って制定された三年間の時限立法だった。

国語審議会
国字・国語問題に関して調査・審議を行う文部大臣の諮問機関。昭和九年一二月二二日設置。会長・南弘。四月一九日、第一回総会が開かれ、松田源治文相から国語の統制、漢字の調査、かな遣いの改定、文体の改善の四件について諮問を受け、終戦までに「漢字字体整理案」「仮名遣改定ニ関スル件」「標準漢字表」などを答申した。

華北分離工作
対ソ戦を想定する陸軍が、中国華北五省の河北・山東・山西・チャハル・綏遠を国民政府から切り離そうとした策謀。陸軍はまず六月一〇日、梅津・何応欽協定で国民軍に河北省内などからの撤退を約束させ、同月二七日の土肥原・秦徳純協定で宋哲元軍にチャハル省からの撤退を承諾させた。さらに一一月から一二月、華北に傀儡政権冀東防共自治政府、冀察政務委員会を成立させ、着々と策謀の実現をはかった。

人民戦線
切迫するファシズムの脅威に対抗するため、共産党と社会民主主義派の労働者が手を結んだ共同戦線。世界六五ヵ国の共産党代表五一三人を迎えて、七月二五日、ソ連のモスクワで開かれたコミンテルン(共産主義インターナショナル)第七回大会で今後の戦術として採択され、翌年六月にはフランスでレオン・ブルムの人民戦線内閣が成立するなど、世界の政治潮流に大きな影響を与えた。

八・一宣言
中国共産党が長征途上の八月一日、全国民に呼びかけた「抗日救国のために全同胞に告げる書」のこと。国家・民族の危機が迫っている今、すべての主義とセクト主義を捨て、すべての中国国民が一致団結して抗日救国の戦いに邁進すべきだとした。この宣言に呼応して各地に反日の火の手が上がり、一九三七年には、抗日民族統一戦線が結成された。

皇道派と統制派
陸軍部内で対立した二派閥。皇道派は昭和六年の三月事件以降、陸相・荒木貞夫らによって形成され、天皇親政論の心情から「皇道」を唱え、直接行動による国家改造をめざす青年将校に支持された。一方、統制派は新官僚と連携し、合法的な覇権確立をめざした。九年、林銑十郎陸相が統制派に転向し、両派の暗闘はついにこの年八月、統制派の中心人物・永田鉄山軍務局長刺殺事件を引き起こした。しかし、皇道派は一一年の「二・二六事件」で一掃される。

▲8月3日、岡田啓介首相は「国体明徴の声明」を発表。しかし軍部や右翼は不満だった。

国体明徴声明
東大名誉教授・美濃部達吉の「天皇機関説」に対する排撃運動の高まりに際し、政府が八月三日と一〇月一五日の二回にわたって発表した機関説否認の声明。「天皇が統治権を行使する為の機関なりと為すが如きは、是れ全く万邦無比なる我が国体の本義を愆るものなり」などとし、以降、社会風潮は一段とファッショ化していった。

同盟通信社
対外宣伝を活発にし国内世論を統一するために、政府・軍部の強い要請で生まれた国策通信社。一一月七日、日本電報通信社(電通)と新聞連合社(連合)の合併による、日本唯一の国家的通信社の設立が認可された。本社は東京・銀座。初代社長は連合専務理事・岩永裕吉。各新聞社のほか、放送協会二社が加盟、昭和二〇年一一月解散した。

共同通信社

▲同盟通信社の実際の業務は翌年1月1日から開始された。写真は昭和11年11月撮影の編集局運動部。

日本ペンクラブ
島崎藤村を会長に一一月二六日、会員一〇五人で発会した文化人組織。ペンクラブは、一九二一年にイギリスで生まれた国際文化組織で、文学を通じて世界各国の相互理解を深め、言論、表現の自由を擁護することを目的とした。日本ペンクラブは、その支部のはずだったが、国内事情がペン憲章と合わず、各国と友好を結ぶ独立団体として始まった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1935

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利・渡邉裕）
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーション・ケーシーハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松耶宏　張替政展　藤森雅弘
結城順一　吉田忠正

●写真協力
上野一人　乙咩雅一　金子人　杉本徳太郎　但馬一憲　中原蒼
福田俊二　藤原史
朝日新聞社　INTERFOTO　NHK　オリオン・プレス　共同通信社　クロマート　国際フォト　CORBIS BETTMANN　SHOOTING STAR　新潟日報社　PPS　Pepperfoto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　ROGER VIOLLET　WWP
資生堂　そごう　東宝　マツダ映画社　マルヘル堂
アメリカ国立公文書館　NHK放送博物館　大宮市立漫画会館　大本本部　大宅壮一文庫　がす資料館　川喜多記念映画文化財団
mitsonian Institution　セイコー時計資料館　中国文化省　日本カメラ博物館　日本玩具資料館　日本近代文学館　(財)日本自転車普及協会・自転車文化センター　日本漫画資料館　HISTORICAL ARCHIVE　吉川英治記念館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

雑誌 23701-2/3 T1123701020562
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社